

「学び続ける」

新潟県高等学校教育研究会会長
(新潟県立新潟南高等学校長)

青 山 一 春

昨年8月、中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会において、次期学習指導要領の改訂における論点整理（案）が示されました。その中で、グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつあるとし、こうした社会的変化の中で次のような人間像が求められています。第一に社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できる人間であること、第二に多様な人々と協働していくことができる人間であること、そして第三に社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことのできる人間であることです。また、学習する子供の視点に立ち、育成すべき資質・能力を以下の「三つの柱」で整理しています。

- 1) 「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」
- 2) 「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」
- 3) 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」

改訂の視点は、子どもたちが「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」ということであり、こうした必要な資質・能力を総合的に育むための学びの発展の中で「アクティブラーニング」が重視されてきました。

さらに、改訂の方向性として、高等学校は中学校卒業後のほぼ全ての生徒が社会で生きていくために必要となる力を共通して身につけることのできる最後の教育機関であるとともに、その教育を通じて、一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばし、その後の高等教育機関等や社会での活動へと接続させていくことが期待されています。年度当初掲げた本教育研究会の目標、「全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成＜共通性の確保＞」及び「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応＜多様化への対応＞」は、こうした役割と責任を果たすためのものとなっています。

予測困難な時代に生きる生徒の教育を担う私たち教師は、もはや「何かを知っている人」であるだけでは不十分です。私たちは、生涯を通じて学ぶ力、さまざまな情報の中から主体的に判断し必要な情報を選択する力、予測不能な未来を切り開いていく力を育むことができる教育力を身につけなければなりません。そのためには、私たちが「学び続け」、学習評価と一体となった学習・指導方法を不断に改善して行かなければなりません。

これからも、本教育研究会が「学び続ける」拠り所となるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

平成27年度各部会事業報告

1 国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 数 学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4 理 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5 芸 術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6 英 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
7 農 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
8 工 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
9 商 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
10 水 産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
11 家 庭 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
12 保 健 体 育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
13 生 徒 指 導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
14 図 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
15 視 聴 覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
16 定 通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
平成27年度 理事会記録・・・・・・・・・・・・	72
平成27年度 活動から・・・・・・・・・・・・	81
平成27年度 収入支出決算書・・・・・・・・	82
平成27年度 役員・・・・・・・・・・・・・・・・	85
(理事・会計監査委員・ 委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事)	
新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・	88
平成27年度事務局日誌抄・・・・・・・・・・・・	92
編集後記 幹事・・・・・・・・・・・・・・・・	93

国 語 部 会

1 運営委員会・代議員会等

(1) 第1回

期 日 平成27年6月24日(水)

会 場 高田北城高等学校

内 容 年度事業の検討

参加者 運営委員会 11名

代議員会 14名

議 題

- 1 全国高等学校国語教育研究連合会の事業計画報告
- 2 平成26年度事業報告および決算報告
- 3 平成27年度事業計画および予算案
- 4 全県研究協議会の実施計画検討
- 5 その他

(2) 第2回

期 日 平成28年2月1日(月)

会 場 高陽荘(上越市)

内 容 年度事業の検討

議 題

- 1 平成27年度事業報告および決算報告
- 2 平成28年度事業計画および予算案
- 3 全県研究協議会の概要
- 4 その他

2 全県研究協議会

期 日 平成27年10月29日(木)

会 場 新潟高等学校

内 容 研究発表・実践発表

講評

講演

研究協議

(1) 実践発表①

「論理的文章の表現実践」

～グループワークを通じた小論文学習～

発表者 国際情報高等学校教諭

岩本 和孝

実践発表②

「アクティブ・ラーニングによる思考の深化を目指して」

～小説『羅生門』の指導から～

発表者 柏崎工業高等学校教諭

阪本 寛子

(2) 講 評

県立教育センター

山本 寛 指導主事

(3) 講 演

「これからの日本に必要な言葉の教育」

～「言語技術」の有効性～

講 師 つくば言語技術教育研究所

所長 三森 ゆりか 様

(4) 研究協議

「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善について」

参加者 74名

指導・助言

県立教育センター

山本 寛 指導主事

3 地区研究会

今年度は、実施していない。

4 刊行物

『国語研究 第62集』

地理歴史・公民部会

1. 総会・研究協議会

期 日 平成27年7月3日(金)

会 場 新潟市万代市民会館

○議 事

- (1) 平成27年度役員改選について
- (2) 平成26年度事業報告について
- (3) 平成26年度決算報告について
- (4) 平成27年度事業案について
- (5) 平成27年度予算案について

○実践報告

「アクティブラーニングの取り組みについて」

地理 村上桜ヶ丘高等学校教諭 小川 浩司

歴史 新発田高等学校教諭 竹田 和夫

公民 新潟江南高等学校教諭 田中 一裕

○基調講演

「アクティブラーニング時代への取り組み
ー教師を志した時の気持ちに立ち返ってー」

講師 上越教育大学教授 西川 純 様

参加者 36名

2. 公民研究会

期 日 平成27年7月14日(火)

会 場 十日町高等学校

○公開授業

倫理 「ロールズ、富の再配分について」

十日町高等学校教諭 風間 春菜

政治・経済 「外国為替相場のしくみ」

十日町高等学校教諭 澁谷 亮輔

参加者 30名

3. 佐渡巡検

期 日 平成27年8月3日(月)

・8月4日(火)

テーマ「金山を中心とする佐渡の歴史と現状」

○巡検先

(初日)

両津港→昼食→佐渡金銀山→南沢疎水道→
佐渡金銀山

(二日目)

佐渡博物館→大膳神社・能舞台→妙宣寺→真
野御陵→真野歴史伝説館(見学・昼食)→長
谷寺→トキの森公園→両津港

○講演

「佐渡金銀山の歴史と世界遺産登録に向けて」

講師 佐渡市世界遺産推進課 下谷 徹 様

参加者 20名

4. 研究成果の刊行

『地理歴史・公民研究』第54集の刊行



(写真) 8月3日・4日佐渡巡検

数 学 部 会

1. 全県研究会

(1) 数学教育研究会

期 日 平成27年7月8日(水)
場 所 済美会館(長岡大手高校)
講 師 新潟大学大学院自然科学研究科教授
田中 環 様
講 演 「21世紀における数理科学の動向と高等
学校における数学教育に期待すること」
研究発表
「新潟大学入試問題の分析について」
県立直江津中等教育学校教諭 竹田 光

参加者 68名

(2) 全県研究協議会兼北陸四県数学教育研究 (上越)大会

期 日 平成27年10月23日(金)
場 所 高田高校
講 師 茨城大学大学院教育学研究科教授
根本 博 様
講 演 「“主体的に学ぶ”文化を創出する算
数・数学の指導」
研究発表
「「解の配置」の指導について」
県立十日町高等学校教諭 中島 雄
藤巻 幹博

「新潟大学入試問題の分析について」
県立直江津中等教育学校教諭 竹田 光

参加者 82名

2. 地区研究会

(1) 中高連絡協議会

期 日 平成27年11月 2日(月)
場 所 新潟南高校・じょいあす新潟会館
内 容 公開授業および研究協議
指導・助言者 県立教育センター教育支援課指導主事
西村 健一 様

参加者 高校29名、中学校30名

(2) 新潟地区研究協議会

期 日 平成27年12月11日(金)
場 所 じょいあす新潟会館
講 師 中央大学理工学部経営システム工学科教授
藤田 岳彦 様
講 演 「-2015年-整数の諸問題」
研究発表
「数学を学ぶ必要性を知り、主体的に学ぶ生
徒の育成」-数学を通して身につけられる能
力についての話を通して-
県立新潟商業高等学校教諭 松崎 大輔

参加者 63名



藤田先生の講演

3. 会議

期 日 平成27年7月8日(水)
場 所 済美会館(長岡大手高校)
議 題 (1)平成26年度事業・決算報告
(2)平成27年度事業・予算案審議

出席者 68名

4. 広報・研究成果の刊行

- (1)平成27年度数学部会会員名簿の発行
- (2)「数学教育研究集録」第54号の刊行

理科部会

1 役員会

【1】第1回役員会

- 1 期 日 平成27年7月6日(月)
- 2 会 場 新潟医療福祉大学
- 3 参加者 22名
- 4 講 演
「バイオメカニクスに関すること」
新潟医療福祉大学
教授 江原 義弘 様
- 5 施設見学 介護実習室、看護実習室、
義肢装具製作の見学等
- 6 議 題 H26 事業報告 決算報告
H27 事業計画 予算案
役員改選
その他
(理科の授業改善研究委員会他)



講演での実験「天井カメラと床下センサーを利用した体の動きと筋力の測定」

2 研究会

【1】物理教育研究会

- 1 期 日 平成27年12月15日(火)
- 2 会 場 長岡高等学校
- 3 参加者 19名
- 4 研究発表
「物理基礎における反転授業の実践」
加茂暁星高等学校 坂田 洋史
「生徒の思考と交流を促す学習課題の検討」
新潟県中央工業高等学校 山本 岳
「SSHの実施状況と課題」
長岡高等学校 本田 崇
- 5 研究協議
「アクティブラーニングに関する指導状況」
- 6 講 演
「振動測定システムや電子素子の原理と利用」
長岡技術科学大学 教授 河合 晃 様
- 7 授業参観 1年 SSA「課題研究基礎」



講演の様子

【2】第2回役員会

- 1 期 日 平成28年2月17日(水)
- 2 会 場 上越科学館
- 3 参加者 20名
- 4 研 修 会 「理科の実験について」
上越科学館 永井克行 様
- 5 施設見学 自然科学の展示
- 6 議 題 H27 事業報告 決算報告
H28 事業計画
その他
(理科の授業改善研究委員会他)

【2】化学教育研究会

- 1 期 日 平成27年11月26日(木)
- 2 会 場 巻高等学校
- 3 参加者 23名
- 4 研究発表・研究協議
「佐渡金銀山での金の製錬について」
佐渡高等学校 富樫 亮
「主体的・協調的な学びの実践例」
県立教育センター 大平 和之
「高校生のための化学塾プロジェクト」
新潟薬科大学 教授 杉原 多公通

5 講演

「化学基礎・化学における教科書の記述に対する提案」

東京理科大学理学部化学科
教授 井上 正之 様



講演「ニトロベンゼン還元の実験」



演習「電子顕微鏡の使い方」

【3】生物教育研究会

- 1 期 日 平成27年10月28日(水)
- 2 会 場 新発田市生涯学習センター
- 3 参加者 21名
- 4 研究発表
「サイエンスリーダーズキャンプ (JST SLP) に参加して」

万代高等学校 相馬 泰

「位相差顕微鏡による原形質流動Ⅱ」

新潟西高等学校 佐藤 政雄

「実物投影機及びタブレット端末の活用について」

長岡明德高等学校 古田島 貴之

『普通科における課題解決学習の実践例～学校設定科目「ESD 探究」での理科(生物)での取り組み』

新発田高等学校 石本 由夏

5 研究協議

「義務教育における理科教育の現状」

三市北蒲郡地区理科センター

星野 勝紀

6 講演 「生態学の最新動向」

新潟大学理学部自然環境科学科

助教 石崎 智美 様

7 演 習

「電子顕微鏡の使い方」

県立教育センター 帆苺 信

【4】地学教育研究会

- 1 期 日 平成27年11月9日(月)
- 2 会 場 第1部 十日町情報館
- 3 参加者 9名
- 4 講演
「中越地域の地層が意味すること
～地層と地震の関係など～」
新潟大学理学部
教授 豊島 剛志 様
- 5 巡検会(十日町市内)
案内 新潟大学理学部
教授 豊島 剛志 様



巡検の様子

芸術部会

1 総会・研究協議会

期 日：平成27年6月19日（金）

13:00～16:40

会 場：アトリウム長岡



(1) 総会 I (13:00～13:50)

ア 開会挨拶

芸術部会部長

塩沢商工高等学校長 坂下 忠士

イ 当番校挨拶

ウ 祝 辞

高等学校教育課

山下 幸治 指導主事

エ 議 事

- ・平成26年度事業報告
- ・平成26年度決算報告・会計報告
- ・平成27年度役員案
- ・平成27年度事業計画案
- ・平成27年度年度予算案
- ・10月の公開授業について
- ・平成28年度当番校について

オ 連 絡

- ・総会・各科研修会の役割分担のお願い
- ・特別会計の集金について
- ・その他

(2) 分科会 (14:00～14:30)

<音楽>

<美術>

<書道>

議 事

ア 各科研修会について

イ 各科当面の課題について

(3) 総会Ⅱ (14:40～15:00)

ア 分科会報告

イ 指導・講評

県立教育センター

小熊 直子 指導主事

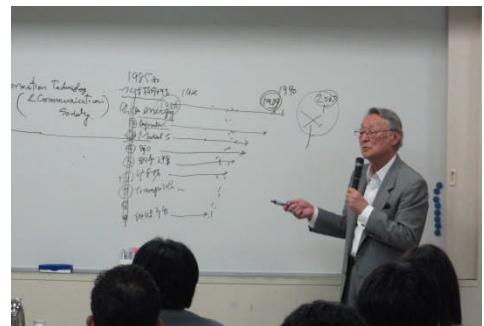
(4) 講演会 (15:10～16:40)

講師 前長岡造形大学理事長

豊口 協 様

演題 「時代は大きく動いている

～造形教育について～」



6月19日 講演会 アトリウム長岡にて

(5) 総会Ⅲ

ア 分科会報告

イ 閉会挨拶

芸術部会副部長

巻総合高等学校長 大田 英 則

2 各科研修会

■音楽科研修会

期 日 平成28年2月3日（火）

会 場 新潟中央高等学校

内 容

- ・ロシアンメソッドピアノレッスン見学
- ・音楽棟施設説明・音楽科講師による1年生主専攻レッスン見学

■美術・工芸科研修会

「鑑賞教育の教授法～対話型鑑賞」

期 日 平成 27 年 8 月 17 日 (月)

会 場 新潟県立近代美術館

講 師 新潟県立近代美術館

学芸員 宮下 東子 氏

参加者 15 名

研修内容

<講義>

・作品に興味を持たせるためのきっかけ
～好奇心スイッチ～

- ・鑑賞を促すためのキーワード
- ・「どうしてそう思ったのか」の大切さ
- ・対話型鑑賞の着地点

<対話型鑑賞の実演>

・展示会場にて講師による実演

かつての鑑賞教育は「知識伝達型鑑賞」が中心で、もっぱら教師が生徒へ伝えるものが多かった。現在は様々な鑑賞教育が研究されており、今回はその中の1つ「対話型鑑賞」についての研修会であった。

生徒の好奇心スイッチを入れるところから、最後の着地点をどのようにしたらよいかなど、講義と2点の作品を前にした実演を交えながら御指導いただいた。

鑑賞教育の大切さが謳われている昨今、現場の教師達は、教授法について迷いや試行錯誤の連続である。対話型鑑賞は美術の知識のみならず、言語能力、コミュニケーション能力など生きる力を育むものでもある。つまり、視野を広げる／他を受け入れる(友達と認めあえる)／自己有用感／想像力の陶冶といった能力の育成にも繋げることができる。今後はそれらを意識しながら授業に臨んでゆきたい。



8月17日
県立近代美術館にて

「第30回新潟県美術教育研究大会・上越大会」

期 日 平成 27 年 11 月 12 日 (木)

会 場 妙高市立新井中学校
新井ふれあい館

テーマ 「かかわる かわる つなぐ 造形教育」

参加者 11 名

研修内容

<公開授業>

「布と織りの世界から」～布草履を造る
妙高市立新井中学校 中村 葉子 教諭

<分科会>

○地域・美術館との連携 (提案発表)

「生涯にわたり美術を愛好する心構えを育て、
創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす授業」
県立長岡商業高等学校 霜鳥 健二 教諭

<全体会>

・講演会

「コミュニケーションをつくる
～創造する力と想像する心～」

講師 (株)東北新社 CMディレクター
中島 信也 様

■書道科研修会

期 日 平成 27 年 12 月 2 日 (水)

会 場 県立教育センター

日 程 13:00～13:15 受付
13:15～13:30 開会式
13:30～15:30 授業研究会
15:30～16:30 研究協議会
16:30～16:45 閉会式

参加者 16 名

授業研究会

【A：漢字の書① 古典に学ぶ「造像記」】

進行： 狩野 芳明 教諭
(新潟県中央工業高等学校)

記録： 加藤 亜希子 教諭
(新潟翠江高等学校)

参加者により、造像記の授業実践の紹介および質疑応答を、次の3点をもとに行った。

- 1 「造像記」をいつ学ばせるか
(年間指導計画での位置づけ)
- 2 「造像記」で何を学ばせるか
- 3 「造像記」をどのように学ばせるか



12月2日 県立教育センターにて

【B：漢字の書② 唐の四大家 顔真卿「顔法」】

進行： 阿部理恵 教諭
(新津南高等学校)
記録： 藤原香代子 教諭
(新潟西高等学校)

顔法の「重厚」さはどこからくるのか。直筆と側筆による筆触の違いなど、筆を開くための準備としてどう指導しているかについて実践披露しながら、一本の線を巡り、交わされる意見は示唆に富み、刺激を受けた。また、範書、添削の方法についても情報交換がなされた。有意義な時間を持つことができた。



12月2日
県立教育センターにて

【C：仮名の書】

進行： 成田年樹 教諭
(十日町高等学校)
記録： 松本直美 教諭
(堀之内高等学校)

参加者により、かなの学習の授業実践の紹介および質疑応答を、次の3点をもとに行った。

- 1 仮名の導入について
- 2 仮名の散らし書きについて
- 3 仮名の臨書について

【実践例一覧】

A漢書の書① 古典に学ぶ「造像記」

書道 I 「牛橛造像記の学習」
～スライドによる「龍門造像記」の学習を含めて～
書道 I 「牛橛造像記の学習」
書道 I 「牛橛造像記の学習」

B漢字の書② 唐の四大家 顔真卿

書道 I 楷書の学習「顔氏家廟碑」
書道 I 楷書の学習「自書告身」
書道 I 行書の学習「祭姪文稿」
書道 I 行書の学習「争坐位文稿」

C仮名の書

書道 I 「かな」を通して伝えるべきこと
書道 I 暮らしの中の書
～仮名を年賀状に生かそう～
書道 I 「高野切第三種」の鑑賞と臨書
書道 I 「高野切第三種」
書道 I 臨書から仮名創作への発展
書道 I 仮名の書の基本を学ぶ
～古筆にむかう前に～
書道 II 通信制における仮名の書の学習

研究協議会内容

- (1) 授業研究会報告
- (2) 指導・講評「観点別評価について」
県立教育センター
小熊直子 指導主事
- (3) H28・29年度 書道科幹事について
- (4) 全高書研山形大会について (報告)
- (5) その他

3 刊行物

平成27年度高教研芸術部会報告 90部

英語部会

〔 1 〕 夏季研究会

期 日 8月17日(月)
場 所 デンカビッグスワンスタジアム会議
室

参 加 者 97名

日 程

(1) 高等学校実践発表

栗本 美紀

(県立長岡向陵高等学校)

「主体的、能動的な学びを促す指導の取り組み」

(2) 県外視察報告

長谷川 聡

(県立新潟高等学校)

「SGH指定校としての渋谷教育学園の取り組み」

(3) ワークショップ

授業のおもしろさとは何か

～生徒のためにしてあげられることは？

講師 前田 由紀恵 先生

県立新潟高等学校 教諭

〔 2 〕 全県英語科研究会

期 日 10月28日(水)
場 所 県立高田北城高校
高陽荘

参 加 者 160名

日 程

(1) 高教研英語部会総会

(2) 分科会

第一分科会 「4技能の指導」

立川 勝則 (高田高校)

第二分科会 「動機付け・学習支援」

市川 操 (巻総合高校)

第三分科会 「授業改善の工夫」

小林 将大 (佐渡中等教育学校)

(3) 分科会報告

(4) 指導講評 高等学校教育課

石橋 弘光 指導主事

(5) 公開授業 普通科1クラス

(6) 講演

講師 東洋学園大学 教授

大西 泰斗 先生

演 題 「一億人の英会話」

〔 3 〕 高校生スピーチコンテスト

(県教委と共催) 参加者 76名

予選 (10月10日(土))

会 場 柏崎エネルギーホール

(上・中越)

県立生涯学習センター

(下越・佐渡)

本選 (11月14日(土))

会 場 県立生涯学習センター

〔 4 〕 高校生ディベートコンテスト

期 日 10月24日(土)

会 場 新潟国際情報大学

参 加 校 5校(8チーム)

〔 5 〕 英語授業力セミナー

期 日 3月5日(土)

場 所 じょいあす新潟会館

参 加 者 120名

講 師

文部科学省初等中等局教科書課

教科書調査官

牧 寛子 様

演 題

「コミュニケーション能力の育成を

目指した授業の創造」

中学校実践発表

入之内 昌徳 様

(茨城県笠間市教育委員会)

高等学校実践発表

箕浦 麻里 様

(愛知県立瀬戸北総合高校)

〔 6 〕 研究成果の刊行

高教研英語部会誌 第60号の刊行

(内容)

夏季研修会報告

全県英語科研究会報告

寄稿 その他

農業部会

農業教育課題研究大会 報告

参加者

1 はじめに

今回の課題研究会では、県内において科目「草花」担当教員に対して球根植物で、チューリップ・ユリを題材として、基礎基本的な講義、実技指導を行った。

2 テーマ

科目「草花」における栽培管理の方法、生育の診断について

3 目的

科目「草花」における的確な栽培管理技術を習得し、草花の商品化について学び、授業に活用できる手法等について理解を深める。

4 日時

平成27年10月6日(火)

13時30分から16時30分まで

5 会場

新潟市 食育・花育センター 講義室A



6 日程

13:00~13:30 受付
 13:30~13:45 開会式
 13:50~15:00 講義(70分)
 15:00~15:10 休憩
 15:10~16:00 実技指導(50分)
 16:00~16:20 休憩・施設見学
 16:20~16:30 指導助言・閉会式

7 参加者

部会長 加茂農林高等学校 竹内 公英
 当番校長 長岡農業高等学校 伊藤 本恵

1	井ノ口 康史	新発田農業
2	金井 俊憲	新発田農業
3	海藤 竜大	加茂農林
4	塚野 英人	加茂農林
5	羽二生 喜國	高田農業
6	近藤 和之	村上桜ヶ丘
7	大橋 清喜	巻総合
8	久保田あづさ	柏崎総合
9	岡田 耕一	柏崎総合
10	大久保 徳人	十日町総合
11	本間 俊之	長岡農業
12	古澤 麻利弥	長岡農業
13	野村 義親	長岡農業
14	中野 忠雄	長岡農業
15	櫻井 修	長岡農業
16	横田 めぐみ	長岡農業

8 内容

(1) 講演

「球根植物の種類と栽培について」

講師 園芸指導員 荒木 義彰 様

- ①植物のいろいろ
- ②球根植物の栽培の基本
- ③様々な球根植物
- ④小型スイセンの紹介

(2) 実技指導

- ①チューリップ・ユリの球根植付け実演及び実習



9 指導好評

これから平成29年度以降の募集学級が発表されます。今の農業教育で何が求められているのかと言えば、地域を支える人材の育成、リーダーとなる人材を育てていくことが求められている。そのため

には、上級学校への進学、地域との連携が重要となってくる。また、生徒が入学するのを待つのではなく、県外から生徒を呼び、農家に下宿させて体験させながら通学して学ばせる。そういう取組みが、地域とつながり、連携となって地域を支え、リーダーとなりうる人材を育成できるのではないか。このような研修会を利用し、教職員のレベルをあげていくて欲しい。



10 おわりに

本年度の農業教育課題研究会は、県内農業高校で科目「草花」を担当している教職員を対象としました。今回は球根植物について講演・実技を行ったが、知っているようで知らない事に気付かせて頂いた研究会になりました。また、講師の荒木様から農業教育は生徒と対面で教育するのではなく、同じ草花ならそれを見て、生徒と同じものを見ながら教えていける素晴らしい教科なのだと、改めて感じさせられる機会を得たことに感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

平成27年度 新潟県高等学校 農業教育課題研究会 報告

当番校 新潟県立高田農業高等学校

目的

新しい時代に対応した農業教育の実現に向けて、本県の農業及び農業教育が当面する課題について研究協議を行い、教職員の資質・能力の向上と農業・農業教育の発展・振興に資する。

大会スローガン

「日本の農業を拓く農業教育を創造しよう！」

期 日 平成27年8月24日(月)

会 場 じよいあす新潟会館

参加者 64名

日程及び次第

10:00~10:30	受付
10:30~11:40	開会式
11:40~12:30	昼食
12:30~14:00	講演会
14:15~16:05	分科会
16:20~16:50	全体会
16:50~17:00	閉会式

講演会

演題 「今、農業が面白い！！日本農業の可能性」

講師 株式会社 新潟クボタ

代表取締役社長 吉田 至夫 様

日本農業の可能性を切り開くことを目指し、講師の特色ある取り組みの紹介をいただいた。

既成概念やこれまでの枠にとらわれないうで、海外に負けない農業技術を取り入れ、挑戦することで、新潟県の農業を活気づけることが求められている。

研究協議

第一分科会

「外部機関との連携による人材育成」

指導助言	長岡農業高等学校長	伊藤 本恵
発表	長岡農業高等学校	渡辺 良樹
司会	長岡農業高等学校	鈴木 英明
記録	村上桜ヶ丘高等学校	内山市乃介

第二分科会

「国公立大学への進学指導のあり方」

指導助言	新発田農業高等学校長	志田 重道
発表	新発田農業高等学校	井澤 美樹
司会	新発田農業高等学校	五十嵐正博
記録	巻総合高等学校	野村 信夫

第三分科会

「食品事故防止」

指導助言	高田農業高等学校長	高橋 哲也
発表	加茂農林高等学校	松井 智之
司会	加茂農林高等学校	寺尾 誠
記録	十日町総合高等学校	堀内 一徳

生徒に専門性の高い知識・技術、実践的な技能を身に付けさせるため、各学校では様々な取り組みを行っている。限られた時間と予算の中で、先端の知識・技術の情報を収集し、実践するためには、関連産業や専門機関等との連携が有効である。積極的に外部との連携を図り、生徒のために、先生方の一人

一人が研鑽を積む必要がある。

中央教育審議会においては、次期学習指導要領を抜本的に見直そうという動きになっている。特に、「アクティブラーニングへの飛躍的充実を図る」が大きなものになっており、生徒が自らの学びをもとに、授業中、ある課題について意見を言い合える。そういった授業をすることが、改革の目玉になっている。

農業については、全国農業高等学校長協会が中心となり進めている「アグリマイスター顕彰制度」が基礎学力テストの代替となるといわれており、生徒自らが、考えて行動できる仕掛けが大切である。

魅力ある農業教育を目指すためには、すべての生徒が自分の夢を持って毎日充実した生活を送り、卒業後は多くの生徒が地元に残って地域農業や地域産業を担い、豊かな生活を送る。また、学校は地域からの期待に、今後とも応え、貢献していくことが求められている。

新しい農業の可能性を発信できる取り組みが、今後期待される研究大会であった。

新潟県高等学校教育研究会農業部会

農業教育課題研究会 報告

当番校 新潟県立新発田農業高等学校

1 テーマ

「国公立大学・難関私立大学への進学希望者の進路実現にむけて」

2 目的

農業高校・総合高校における農業学習を通して高校生の探求心・研究心を育てると同時に、その事を通していかに大学進学希望者の増加につなげるのか協議する。また、国公立大学・難関私立大学進学希望者の進路実現のためにはどのような指導方法が効果的なのかを協議し、今後の指導に生かす。

- (1) 国公立大学・難関私立大学進学指導のポイントをまとめる。
- (2) 各校における3年間を見通した具体的な指導計画(モデル案)を作成する。
- (3) 総合高校における農業系大学進学指導の課題と改善方法を検討する。

3 期日

平成27年12月3日(木)

4 会場

じよいあす新潟会館 4F「やまぶき」

5 日程

13:15~13:30 受付

13:30~13:40 開会式

当番校長挨拶 県立新発田農業高等学校長
志田 重道

13:40~14:30

講演「大学は農業高校からの推薦者に何をのぞむのか」

講師 国立大学法人 新潟大学 農学部

入学試験実施委員長 中野 和弘 様

14:30~14:40

質疑応答

14:50~16:40

研究協議

・各校のモデル案の提案

・総合高校の農業系大学進学者指導の現状

16:40~16:50

指導助言

高等学校長協会 農業水産部会長

県立加茂農林高等学校長 竹内 公英

6 参加者 (17名)

県立加茂農林高等学校校長 竹内 公英

県立新発田農業高等学校校長 志田 重道

県立長岡農業高等学校 渡邊 良樹

金子 千陽

県立加茂農林高等学校 塚野 英人

松井 智之

県立高田農業高等学校 吉山 こず恵

鈴木 孝紀

県立巻総合高等学校 野村 信夫

県立村上桜ヶ丘高等学校 菅谷 耕司

県立十日町総合高等学校 堀内 一徳

県立柏崎総合高等学校 高橋 宣康

県立佐渡総合高等学校 山田 隆生

県立新発田農業高等学校 山本 誠 石山 勝教

井澤 美樹 緒形 忠大

7 開会式

当番校長挨拶 県立新発田農業高等学校長

志田 重道 先生

今回のテーマは、「国公立大学への進学希望者の進路実現に向けて」という事である。国公立大学へ入学するための手立てを、農業高校4校に加え、農業科を持つ総合学科の先生方で情報を共有し、子ども達が夢を叶えられるようになってほしいという思い

で、去年から継続して本テーマを設けた。今日は、特に国公立大学にテーマを絞って、情報交換をしていただき、どういう事をしたら良いのかについて協議してもらいたい。生徒が希望する大学へ行けるように、情報共有をし、各学校で実践してもらいたいと挨拶があった。

8 講演「大学は農業高校からの推薦者に何をのぞむのか」

講師 国立大学法人 新潟大学 農学部入学試験実施委員長 中野 和弘 様

大学側が農業高校からの推薦者に何を望み、現在どう評価しているのか、推薦入試において何をポイントに評価を行っているのか、大学への入学を希望する生徒のどのような部分を育てれば良いのかなど、具体的なお話をいただいた。また、新潟大学農学部でどのような研究に取り組んでいるのか説明があり、その様な研究に興味を持っている生徒を是非受験させて欲しいとの希望を述べられた。

質疑応答では、農業高校は農業後継者養成が大きな使命であるが、今後我が国農業の変革期をリードする農業後継者育成のために大学進学を勧め、広い視野を持った人材を育成したいと考えている。大学側も農業後継者育成に協力していただきたいとの要望が出された。

9 研究協議

協議に入る前に、各校から3年間を見通した具体的な指導計画（モデル案）について説明してもらい、これを踏まえ今後の進学者指導についてどのように取り組んでいくべきなのか協議を行った。各校から以下のような現状と課題が説明された。

【県立長岡農業高等学校】

生徒の大学進学に対する興味関心が薄く、教員からの生徒に対する動機づけが必要である。また、農業科職員のみならず、普通科教員との連携が必要であり、個別指導の開始時期を早める事も検討していかなければならない。

また、日常的な教職員からの情報提供が重要であり、大学進学者のみに情報提供するのではなく、全生徒に話す事で大学に対する魅力や自分の可能性に気付く事が出来る。

【県立加茂農林高等学校】

真のリーダーとして信頼され社会で活躍する人材を、大学と継続した7年間において育成していきたい。その前半の3年間を占める教育活動は、大学で推薦入学の学生に求められる資質・能力を授業の中

で育てるカリキュラムを展開し、大学が示すアドミッションポリシーと合致する教育を行っていく必要がある。

【県立高田農業高等学校】

推薦入試対策は、個別指導が重要であり、そのノウハウを体得している職員の存在が重要である。教員の異動サイクルが早い為、指導のノウハウが他の職員に伝わりにくい事が課題である。農業系の学部への推薦入試対策は、専門的な知識が必要となる為、農業教員の専門性が重要である。移動先で専門外の学科に配属になる事もあり、指導力が生かせないケースもある。

【県立新発田農業高等学校】

各学年主体での進路指導が中心となっていた為、進路指導部があまり機能していなく、組織的な進路指導を行う必要がある。また、家庭学習の習慣が確立されていない事もあり、進学指導においても、周囲の雰囲気の流れ、学習する努力が継続しない生徒が多い。推薦入試における個別指導は指導チームを編成し、受験者1名に対し複数名の教諭が指導に当たる体制をとっているが、指導の開始時期を早める等の課題がある。

【県立巻総合高等学校】

中学校側は、大学進学希望する生徒は普通高校へ進学するよう指導しており、農業高校、総合高校か



ら大学に行くという意識がない生徒が多いのが現状である。校内体制、大学との情報交換や模試の分析等において普通高校に比べ情報が不足している。

【県立村上桜ヶ丘高等学校】

農業系列を選ぶと自動的に20単位は専門科目を学ぶ事になり、新潟大学の推薦条件を満たし、進学する場合のカリキュラム対応となっている。6月の職員会議で進学希望者を示し、全職員に各教科ごとに割り振り、その中で担当者を決め、7月中旬から指導を行っている。総合高校では、農業教員との関

わりが2年次からであり、そこから系列の先生方と関わる時間が多くなり、進路について話す機会も多い。そういったことから、農業教員がアクションを起こす時期が遅くなっている事が課題である。

【県立十日町総合高等学校】

農業系の大学を進学希望する生徒はいなく、2年次より農業科目を学習する中で、農業系の専門学校や農業大学校への進路希望者が若干現れる。大学進学を考えている生徒は、最初から国際情報、六日町高校等に進学している。2年次進路を考える時に、農業系の4年制大学を希望しても、フリー選択であるため、20単位取得は厳しいのが現状である。

【県立柏崎総合高等学校】

1年次より進学に対する意識付けはできているが、入学当初より、専門学校へ進学希望する生徒が多くいるのが現状である。農業の学習は2年次からであり、2年間で大学進学へ導かなければならず、現在は4年制大学へ進学する生徒はいない。

【県立佐渡総合高等学校】

3年前までは指導のできる教諭がいなく、担任は生徒任せであった。また、生徒の情報も知らされず、組織的な連携が出来ていなかった。昨年からのシステムを改善し、担任と指導担当者との情報交換を密に行い、指導担当者は担任と共に調査書の作成を行うこととした。

協議

大学受験者が少ない、これをどう増やしていくのか、また、1年次には進学希望者が10人程度いるが、3年次ではかなり減少しており、この進学希望者をどのように諦めさせないでいくのか、また、受験希望者の指導について、必ずやらなければならない指導について意見をいただきたい。

・どれだけ情報を与えてあげるかという事もあるが、諦めさせない為には1年次から基礎学力をつけさせる事がポイント。

・ある程度、現実を知らせ、自分にとってベストな進路を選ばせるよう、1年次から指導する必要がある。課題研究等で農業の学習に対して、興味関心を持たせ大学進学すると色々な事が学べ、自分の可能性も開ける事を伝える必要がある。

・なぜその大学へ行きたいのかという事をじっくりと話を聞き、適性を見極めてあげる事が大事。・基礎力診断テストを行うに当たり、事前学習テキストを使い学習する事で学習する機会が持てる。

・朝学習で学びなおしプログラムを活用し学習する習慣を身につけ、家庭学習につなげていきたい。

・常々の授業を大切にし、評定をしっかりとるよ

う指導を行っている。

・日常的に学習する習慣をつけるために、家庭学習のプリントを配布し、強制的に学習する時間を作った。これにより、学力向上を目指しているが、今後は実施の仕方の検討も必要かと考える。

・常日頃生徒に声をかけ、面談等を頻繁に行ったり、チャレンジセミナーに参加させることで進学に対する意識付けを行う必要がある。

・週末課題や朝学習を行い学習時間を増やし、基礎学力向上を目指している。

・基礎力診断テスト、語彙検定、漢字検定、秘書検定等の課題提出を義務付けている。

様々な意見が出たが、これを各学校へ持ち帰り、3年間の具体的な指導計画を作成し、今後に生かすこととなった。

10 指導助言

県立加茂農林高等学校校長

竹内 公英 先生

農業高校は、地域に貢献できる人材を育てる、就職しその地域で活躍できる人材を育てることが大きな目的であり、農業のリーダーを育てなければならない。農業のリーダーを農業高校から育ててもらいたい。高校卒業後すぐというのもあるが、色々な事を学ぶために大学を出ることが、リーダーとしての条件である為、大学に継続的な学習の中でリーダーを育ててもらいたい。先日、中長期の再編成計画が示されたが、それぞれの地域で産業高校という言葉が出てきた。当然統合となる学校が予想されるが、まだプロパーとして生き残る学校があるかもしれない、その中で、ちょうど変わり目で正念場だと思う。是非、プロパー校、総合高校はこれからどうしていったら良いか、農業の先生方がイニシアチブをとって、産業高校になっても頑張っていく、総合高校も総合選択制の学校に変わっていくと思うが、その中でも農業の先生方がイニシアチブをとって頑張っていく行かなければならない。そういう意味でも単独募集等々、色々な事を考えてもらいたい。ある程度評価されればチャンスである。少子化で学級がどんどん減り学校が再編されると、専門高校や総合選択制の学校が増えている。逆に言えば能力のある、良い資質を持っている生徒が入ってくる可能性が大きくなる。それを上手く利用し、推薦でこの大学に行けるんだという事を解ってもらい、農業の推薦で入れるんだという事をみんなに解ってもらい、良い循環になれば、学生が育ってリーダーが育つのではないかなと思う。これからの正念場だと思うので先生方頑張ってもらいたい。先生方への激励も含

工業部会

「機械・電子機械系」見学会・研究会

【見学会】

期 日 平成27年7月3日（金）

会 場 株式会社 総合車両製作所 新津事業所

参加者 23名

今回見学させていただいた総合車両製作所新津事業所様は、ステンレス製の車両を製作している鉄道車両メーカーである。

見学場所では、JR東日本様向けE233系などの製作をしていた。ステンレス鋼板から必要な形状を切り出し、折り曲げたりしながら車体の骨組みを作り、そこにスポット溶接を使い壁面を取り付けていた。完成すると20mにもなる車両が毎日1台製作できる能力を有しているとのことであった。現在の車両は、車体の軽量化やハイブリッド式などの技術を取り入れ、かつての車両に比べ50%の省エネ化がなされているようだ。

また、質疑応答では多くの先生方から、素材の話や溶接技術、仕事の仕方など多岐にわたる質問がなされるなど、有意義な会となった。

最後に、ご多用の中見学会を引き受けて下さった総合車両製作所新津事業所の皆様に感謝申し上げます。



見学会の様子

(記・新津工業高等学校

工業科 小熊 幸成)

【研究会】

期 日 平成27年10月13日（火）

会 場 上越総合技術高等学校

参加者 20名

研究会として、1件目に柏崎工業高等学校の島倉康幸氏より「製図に取り組む力をつける授業実践」について、2件目に上越総合技術高等学校の八木丈

クト「ものづくり塾にむけた取り組み」～3Dcadソフトとレーザー加工機の活用～の2件について発表を行った。



研究会の様子

当日は八木氏の発表、並びに今年度に関東甲信越地区機械工業教育研究会で発表を行った上越総合技術高等学校の岩村通忠氏の発表内容において、主に使用された本校のレーザ加工機をはじめ、同校機械科内の施設・設備の見学時間を設けた。

また情報交換として、本校が取り組む新潟未来プロジェクトの一環として、インターンシップ並びにデュアルシステムの拡充計画の紹介、県内各校の3Dプリンタの整備状況と今後の展望等についてなど、活発に話し合われた。

他科からの参加者との意見交換なども盛り込むことができ、有意義な研究会となった。

(記・上越総合技術高等学校

機械科 山岸和重)

「工業化学系」研究会・見学会

【研究会】

期 日 平成27年8月21日（金）

会 場 柏崎工業高等学校

参加者 12名

(1) 高校生ものづくりコンテスト

(化学分析部門) について

全国大会研究委員からこれまでの検討経緯、作成されたブロック大会用標準テキストを基にした、審査基準等について報告があった。今後の県大会や北信越大会の運営方法や課題等について活発に意見交換を行った。

(2) 木炭アルミ自動車競技大会について

本年度の大会運営の流れ、出場チーム数・競技規則、マグネシウム電池部門の試走等を主な内容として協議を行った。

(3) 日本工業化学教育研究会新潟大会について

平成30年度に開催予定の上記大会について、各校の役割分担などを含め、今後の進め方を確認した。



研究会の様子

【見学会】

期 日 平成27年8月21日（金）

会 場 東京パワーテクノロジー株式会社
新潟原子力事業所

参加者 12名

見学先の事業所は、柏崎刈羽原子力発電所構内にある。見学会に先立ち、原発ビジターハウスにて安全対策工事の現状やセキュリティ上の留意点などについて説明を受けた後、マイクロバスに乗り車窓から原発構内の見学をしながら、事業所へと向かった。

事業所に到着し、最初に事務所内を見学させて頂いた。化学系に関連した業務内容として、水質分析、放射線測定、放射性廃棄物の管理等があるが、それらの施設や作業現場の見学はできない。そのため、事業所の業務内容については、中山業務部長様なら

びに関口保守管理部長様のお二人から、放射能・放射線測定、放射性廃棄物の管理・処理、設備運転等を中心に、スライドを使ってわかりやすく解説して頂いた。見学会の終わりには、「工業化学」の授業内容にも関係する基本的な放射線測定の方法などについて質疑が交わされ、今後の生徒への指導について参考になる内容であった。



見学会の様子

(記・柏崎工業高等学校

工業化学科 水落 竜馬)

「建築・土木系」研究会・見学会

【研究会】

期 日 平成27年10月5日（月）

会 場 じょいあす新潟会館

参加者 21名

(1) 建築系講演会

「建築学生の海外就職について」

講師 長岡造形大学教授 山下 秀之 様

今回、教員研修の一環としてご協力をいただいた長岡造形大学環境デザイン学科山下教授は日本建築家協会賞初め数々の受賞されており、「大学での教育として建築学生の海外就職」題として講演を受けた。

様々な学生を抱え育成する手段として人真似ではなく個々が考え続けることでオリジナルが生まれる指導方針や、海外で仕事をする上で秀でた特技として高度な3D動画作成の技術を習得させることを行っており、完成度の高い画像と海外で活躍する卒業生の様子を披露していただいた。



建築系講演会の様子



土木系講演会の様子

(2) 土木系講演会

「中越復興の経験と教訓」

講師 (一社)新潟県建築士会

常務理事 渡辺 斉 様

(一社)新潟県建築士会常務理事渡辺様は新潟県庁に入庁され、建築住宅課、都市計画課などを歴任された。長岡市の復興管理管として(中越地震からの復興と地域振興総括を担当)、主にまちづくりや地域づくりに貢献された。今回、「中越復興の経験と教訓」から新たな時代のまちづくり戦略として、時代の潮流・まちづくりの動向の説から、ヨーロッパの小さな都市の知恵のまちづくりがオンリーワンに繋がるなどポイントの説明を受けた。最後に、この2つの研修を受けて、新潟県立高等学校の教員として、様々な教科指導で応用できる内容であり、また質問や意見交換を通じて有意義な研修を行うことができた。

【見学会】

(1) 建築系見学会

期 日 平成27年10月6日(火)

会 場 新潟県立新潟商業高等学校
改修工事現場 他

参加者 21名

今回、教員の研修の一環としてご協力をいただいた福田組他のJVで行われている改修工事現場では、RC造4階建、建築面積2752.41㎡延床面積10132.65㎡最高高さ19.65m規模の内容について説明を受け見学した。現場は躯体の状態であったが施工の完成度が高く、資材や道具が整然としていたことを見学し大手企業の仕事に敬意を感じた。また、新潟県各工業高等学校の卒業生が就職しておりヘルメットを被り、企業人らしくなった彼らを見かけたときは嬉しく感じた。また有意義な研修を行うことができた。



(2) 土木系見学会

期 日 平成27年10月6日(火)

会 場 新潟港西港 他

参加者 18名

今回、教員の研修の一環としてご協力をいただいた国土交通省北陸地方整備局/新潟港湾・空港整備事務所は、新潟西海岸・新潟西港・新潟空港・新潟東港の整備、管理業務を担っている。新潟市の海岸線は明治後半から最大350m後退(浸食)しており、西海岸の面的防護工法(潜堤、養浜、突堤)による砂浜の復元整備事業について現地説明を受けた。親水護岸の要素を入れつつ自然相手の想像を絶する工事であるが、確実に砂が定着し成果が現れていると思われた。次に西港第二西防波堤の改良工事を業務艇に乗船させていただき海上から説明を受けた。波の影響で防波堤下部に洗掘現象が発生するが、その堤体の安定性を確保し、入港船舶の安全性を確保する工事である。常日頃より整備していることで安全が確保されているのだと実感し、また業務艇にも乗船させていただき貴重な経験となった。最後に、水理実験場を見学し研修会を終了した。改めて土木の仕事は自然を相手にする壮大な仕事であることを再認識した。港湾事務所の方々からはきめ細かく説明をいただき、また質問や意見交換を通じて有意義な研修を行うことができた。



海上から新潟西港の説明を受けている様子

(3) 建設業界と教員の情報交流会

期 日 平成27年10月6日(火)

会 場 じよいあす新潟会館

参加者 18名(高等学校教員)

13名(建設業協会青年部役員)

近年、建設業界の担い手不足、育成が急務となっ

てきている。そのため生徒を送り出す側の立場と、受け入れる側の立場から率直な意見交換を行い、諸問題に対して解決できればと思い、建設業協会青年部との情報交換会を計画した。まず最初に各学校側より建設業界への入職の現状と課題について報告があった。ここ最近の景気の回復に伴い求人数が大幅に増え建設業への就職者が多くなったが、労働環境の改善を求める意見もあった。次に建設業界の立場から、「建設業界の素晴らしさ」、「やり甲斐のある仕事」などの職業観の育成に努めてもらいたいとの意見が出された。専門知識としては、幅広く基礎知識を学んできてもらいたい。型枠や土留めの工事測量や玉かけなどの技能を覚えてきてもらうと有り難いとのことであった。また新入社員の研修として高校での授業内容が解ると社員教育がし易いとの意見もあった。短時間であったためお互いの意見を出し合って終了となったが、今後ともこの様な情報交換会を通して連携を密にしていくことを確認し散会した。



情報交換会の様子

(記・新潟県立新潟工業高等学校)

建築科 樋口 正弘
土木科 本間 裕明

「電気・電子系」研究会・見学会

期 日 平成27年10月14日(水)

会 場 上越教育大学

参加者 15名

【研究会】

今年の研究会は上越教育大学大学院自然・生活教育学系(技術)教授の山崎貞登様より「小・中・高一貫した技術教育、情報教育」と題し、ご講演いただきました。また、現職で中学校に在籍する教員で大学院生の水野頌之助先生(上越市立城北中)から中学校の技術の授業内容を聞くことができました。

世界の技術教育、工業教育、プログラミング教育や先日公表された次期学習指導要領改訂の基本方針や大学入試改革など、工業教育や情報教育の課題を深く見つめることができた貴重な機会になりました。

今回の研究会において、大変ご多忙の中、講師として貴重な話題を提供していただいた山崎様、水野様をはじめ、ご協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

【見学会】

見学会は上越教育大学情報メディア教育センターを見学させていただきました。

まず、上越教育大学情報メディア教育支援センター准教授の大森康正様からセンターの全体的な説明をしていただきました。災害時やパンデミック等を想定した安否確認システムを外部システムを用いて構築するなど、高校とは違ったシステムの概要を聞かせていただきました。

その後、センター全体の施設を見学させていただきました。普段見ることができないサーバ室など、見応えのある設備が多くあり、大変充実した見学会となりました。

今回の見学会で説明していただいた大森様、情報メディア教育支援センターの皆様、そして見学会についてご配慮いただいた上越教育大学教授の山崎貞登様をはじめ、関係の皆様にご挨拶申し上げます。



研究会の様子

(記・上越総合技術高等学校 電気・情報系
真田謙一郎)

商業部会

「ビジネス分野」研究会

1 期 日 平成27年11月17日(火)

2 会 場 新潟県立柏崎総合高等学校
株式会社ブルボン本社

3 参 加 10校 18名

4 日 程

受	付	10:00~10:30
開	会	10:30~10:50
研 究 授 業		10:55~11:45
研 究 協 議		11:50~12:30
講 演		14:00~15:00
ブルボン本社見学		15:00~15:30
閉	会	15:30~16:00



5 研究授業

科目：「商品開発」3年次 48名

内容：開発商品の試作品の評価・改善の
グループ討議

(1)実習の趣旨

教科書で学習した内容に基づき総合的に商品開発を実習させることにより、自ら考え工夫する能力を養う。またチームとして活動することにより、他者との連携やコミュニケーション能力の育成を図る。

(2)実習形態

6名を1グループとし、チームで商品開発を行う。

(3)商品開発の考え方

本来自由な発想で商品開発をさせるのが理想ではあるが、今回は柏崎総合高校で取れた野菜や加工した食品を利用してお菓子（パン、洋菓子、和菓子など）の商品開発を考えることとした。主な食材として味噌、醤油、ジャム、柿、野菜などを利用する。

(4)本時の授業

以上の趣旨のもと、企画書を提案し、食品製造系列の生徒に試作品を製造してもらい、系列間の連携や、生徒同士が話し合い問題を解決する能力を養う取り組みとなるよう計画しスタートした。

本時の研究授業は、企画書の提案に基づいて試作品を製作してもらい、それについて、グループで討議し、評価と改善点の洗い出しを行った。個人の意見を出し合いグループでの結論として、商品評価・改善要望書にまとめ食品系列の生徒にフィードバックし、班長を中心に活発な話し合いとなるよう促した。



講演内容は「商品開発について」と題して株式会社ブルボンの取り組みの実例をもとに

6 研究協議

(1)ビジネス分野のうち、外国および外国人とのコミュニケーション能力を身に付けることが重要視されている。実際、英語を社内コミュニケーションツールとしている企業もある。また、東京都では、生徒全員に実用英語2級を受験させている商業高校もある。そこで、各校の取り組み状況をお伺いしたい。(新潟商)

・実用英検の取り組みは特に行っていない。
(参加校すべて)

・全商英検は英語科主導で取り組んでいる。
(三条商、長岡商他)

(2)今回の商業経済検定試験科目変更にともなって、授業展開や対策を講じている学校がありましたらその内容を教えてください。(新潟商)

・教育課程の中で1級をカバーしている。
(長岡商、新発田商、塩沢商工)

・ビジネス経済Aで受験予定 (三条商)

(3)「商品開発」における生徒の評価はどのようにしているか。(三条商・長岡商)

・考査の点数、実習日誌、企画書などの提出物を総合的に評価している。(柏崎総合)

(4)授業で開発した商品で次年度継続しているものがあるか。(三条商)

・基本的に継続なし。継続は卒業生の許可も必要なので。(新発田商)

・Rikkaで開発した商品は継続しているが、相業者の都合により継続できない場合もある。
(高田商)

(5)商品開発を生徒にさせる際の導き方をどのようにしているか教えてください。(長岡商)

・前年度の発表会を見て履修してくるのである程度の知識がある中でスタートできる。また様々なイベントへの参加があるので自主性を持って取り組んでいる。(三条商他)

7 講演

演題 「商品開発について」

講師 株式会社ブルボン

総合企画室商品開発室室長

杉山 篤 様



懇切丁寧に分かりやすい内容のご講演を頂いた。

講演内容は以下の通りである。

(1)株式会社ブルボンの社史・概要

ブルボンの社史などを広報用のDVDでご説明頂いた。

(2)商品開発について

商品開発の2つの役割である①技術力による新市場の開拓、②資源を活用し、経済的な価値を創造するという役割についてご教授いただき、52週毎週新製品を販売しているが、千三つという1000品のうち市場に残るのは3品程度であるという実情をお話し頂いた。

また、実際の企業で実施している商品企画の流れについてご説明頂いた。

(3)地域限定商品について

株式会社ブルボンで行った地域限定商品の開発の実例のご説明を頂いた。

具体的には、黒田投手の広島復帰で人気も今年以上に盛り上がると予想して広島カープとコラボして、カープ限定のプチシリーズの開発の取り組みのお話を頂いた。

今回の講演を通して一つの商品を世の中に送り出すご苦労や様々な交渉、手続きなどやるべき事の多さを改めて確認することができた。この後、今年4月に完成した、新社屋を見学させて頂いた。



水産部会

水産教育研究会

- 1 期 日 平成 27 年 12 月 3 日 (木)
- 2 会 場 県立海洋高等学校 (大会議室)
- 3 指導・助言者 新潟県立高田農業高等学校
校長 高橋 哲也 様

4 日 程

受付	13:00~13:20
開会式	13:20~13:30
研修報告	13:30~13:50
全水研発表報告	13:50~14:20
休憩	14:20~14:30
問題提起	14:30~14:50
討議	14:50~15:30
閉会式	15:30~15:40

5 研修報告

平成 27 年度 農林水産省補助事業

「HACCP 責任者養成研修に参加して」

新潟県立海洋高等学校食品科学科

教諭 松本 将史

本校では平成 25 年度より、消費者に信頼される安全性の高い食品を製造するために、国際的に標準化された高度な衛生管理システムである HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point: 危害分析・重要管理点) を製造実習に導入している。これからの実習活動における食品の品質管理体制の強化及び安全管理技術の構築に役立つことを目的とし、HACCP 責任者養成研修に参加した。

6 全水研発表報告

「第 51 回全国水産高等学校研究協議会参加報告」

新潟県立海洋高等学校

校長 久保田 郁夫

研究協議会参加の概要及び研究発表の実践事例について報告した。

教諭 矢口 沙保里

研究協議会全体の詳細内容と本校が取り組んでいる産学官連携事業「シーフードカンパニー能水商店」を利用した探究活動等について報告した。

7 問題提起

「学校の現状と今後の方針について」

新潟県立海洋高等学校

校長 久保田 郁夫

文部科学省成長分野等における中核人材の育成養成等の戦略的推進事業及びオンラインスクール・新潟未来プロジェクトに挑戦することを呈し、本校が目指すこれからの水産・海洋教育の発展に向け問題を提起した。

討議

戦略的推進事業及びオンラインスクール実施にあたり、各コース代表者から創案を提示してもらった。続いて質疑応答、討議へ入る。意見交換半ばで時間超過となり、次回へ持ち越しとなった。

(文責 県立海洋高等学校 貝田 雅志)



家庭科部会

1 全県講習会

期 日 平成27年8月10日(月)

会 場 燕三条地場産業振興センター
メッセピア

当番校 新潟県中央工業高等学校
加茂農林高等学校
見附高等学校

参加者 37名

(1) 講演・実習

「家庭科教育における防災学習」

講師 特定非営利活動法人
にいがた災害ボランティアネットワーク
理事・事務局長 李 仁鉄 様



「家庭科教育における防災学習」講演の様子

[内容]

五十嵐川の水害時、ゲリラ豪雨の際の増水の速さ、スピード感がわかる動画にはじまり、広島土砂災害、中越地震、輪島市等各地の被害状況を映像でみせていただいた。災害のニュース映像を目の当たりにすると被害の大きさに目がいきがちだが、災害によりここに住む人々の生活がどれほど影響を受けるかを予測し、何に困っているのかを考えてもらいたいというボランティアの視点を教えてくださった。



防災食実習の様子

また、実習では「ポリ袋で作る防災食」として、二重にしたポリ袋に材料を入れ、お湯で加熱するという簡単な手順で「スパゲッティーナポリタン」「ポトフ」「蒸しケーキ」などを調理・試食した。物資が不足する災害時でも簡単に作ることができ、手間も水も節約できるうえに殺菌効果もある。防災学習で実習する場合は生徒にアレンジを考えさせることもできる。「福祉のあり方」や「暮らしを支える力」を育てる防災教育・防災学習の大切さを考える内容であった。

(2) 講演・演習

「学校における消費者教育の推進に向けて ～授業を効果的に進めるために～」

講師 公益財団法人
消費者教育支援センター
総括主任研究員 柿野 成美 様



「学校における消費者教育の推進に向けて」講演の様子

[内容]

スペインの高校の消費者教育や消費者市民として「フェアトレードタウン運動」を起こしたイギリスの事例紹介のあと、消費者の権利と責任をチョコレートや綿花の生産にかかわっている児童労働の問題と関連させてお話しいただいた。視聴した児童労働のVTRから豊かな生活の裏側にある現実を見据え、私たちは一生消費者であることを自覚して学び続けることの大切さを実感した。授業実践例や教材の紹介等もあり、消費者意識が高まる講演であった。



フェアトレードのチョコレートパッケージ

(3) 指導・講評

新潟県立教育センター

指導主事 櫻井 直子 様

広く生活を学習課題とする家庭科ならではの防災教育、消費者教育のありかたについての知見を提案してもらった。福祉の視点を取り入れ、立場の弱い人の状況を想像する力、痛みがわかり困っていると感じる、支援していこうという感性の育成が必要と感じた。

消費者教育推進法は、消費者市民社会の考え方を盛り込んだことに特徴がある。消費者教育の範囲は広く、一生、消費者でありつづけ、学び続けることが必要であることがわかった。消費者保護から権利の主体へ。それが、新しい消費者教育のあり方ととらえる。

研修内容は、これからの家庭科教育に必要な新しい視点を盛り込んだ学習内容。今後の家庭科教育に活かされ、生徒たちへの確かな学びへ伝えていってほしい。

2 家庭科部会委員会

期 日 平成27年12月1日(火)

会 場 長岡大手高等学校済美会館

出席者 新潟県教育庁高等学校教育課

指導主事 田中 謙一 様

新潟県立教育センター

指導主事 櫻井 直子 様

高教研家庭科部会部長

長岡大手高等学校長

吉原 満

高教研家庭科部会副部長

西川竹園高等学校長

関矢 和彦

高教研家庭科部会副部長

長岡商業高等学校長

島峯 勉

各校家庭科部会代表 61名

(1) 開会

①高教研家庭科部会部長挨拶

吉原 満

②来賓挨拶

指導主事 田中 謙一 様

(2) 報告

平成27年度事業報告・中間会計報告

平成28年度事業計画・予算案

(3) 講習会

「保育技術検定 造形表現技術について」

講師 巻総合高等学校

教諭 小川 浩子

[内容]

保育技術検定造形表現技術の4級から1級について、それぞれ指導のポイントや留意点の説明をしていただいた。

参加者全員で過去の4級問題を体験し、実際に自分が折り紙を使ってやってみることで間違いやすいところやポイントを抑えることができた。保育検定一元化へ向け、公正な技術検定を行うための確認ができた。



「保育技術検定造形表現技術」講習会の様子

- (5) 閉会
 閉会挨拶
 高教研家庭科部会副部長

関矢 和彦

3 研究成果の刊行

「家庭科研究 51号」発刊

内容は新潟県高等学校教育研究会家庭科部会、県教育委員会による研修授業、高等学校長協会家庭部会、技術検定関連実践報告等を集録。



検定に向けての
 指導例

検定作品見本

(4) 指導講評

新潟県立教育センター

指導主事 櫻井 直子 様

家庭科教育では技術検定の大切さを実感するが、特に保育を学ぶ意義として二点感じていることがある。一点目は社会の変化、家庭の多様化、子育て環境の変化のなかで虐待などの問題は個人や家庭内だけではなく子育て支援も含めて社会全体の問題として捉える必要がある。保育士を目指す生徒だけではなく、保育技術検定を通して学ぶ豊かな想像力や感性、コミュニケーション能力がすべての生徒に必要な内容であること。二点目は平成27年の保育士の有効求人倍率は全国で2.1倍、東京都では5倍以上である。また、様々な子どもたちが様々なニーズを抱えている現状から保育士を目指す生徒たちにはより高度で専門的な資質や能力が求められる。高校生時に豊かな感性を活かした技術の習得がその土台となる。本日の学びをこれからの技術検定や家庭科教育にいかしていただきたい。

保健体育部会

1 保健体育部会全県研究会

期 日 平成27年11月26日(木)
会 場 県立十日町高等学校
参加者 54名

【研究発表】

授業研究 魅力ある授業展開
発表者 県立十日町高等学校
教諭 関井 徹
実施校時 第5校時
実施クラス 第2学年1・3組男子
(35名)

内容 「体づくり運動の実践発表」



〈11月26日 十日町高校にて〉

【講演会】

研究会テーマ スポーツ障害の対処法
講演テーマ 「学校体育活動における障害の発生とその予防」
講師 近 良明
医療法人社団KOSMI
こん整形外科クリニック
理事長・院長



〈11月26日 近良明先生〉

2 全県養護教諭研修会

期 日 平成27年10月20日(火)
会 場 じょいあす新潟会館
参加者 95名

【講演会】

研究会テーマ 養護教諭の行う健康相談における省察の効果
講演テーマ 「健康相談の高度実践化をめざして—省察の考え方・進め方—」
講師 留目 宏美
上越教育大学大学院
学校教育研究科准教授

3 刊行物

今年度より、保健体育部会HPに掲載

生徒指導部会



1 全県委員会

第1回全県委員会

期 日 平成27年7月2日(木)
会 場 県立巻高等学校 会議室
参加者 部長・副部長・全県委員・事務局
協 議 平成26年度事業報告及び決算報告
平成27年度事業計画及び予算審議
地区幹事校選出
全県研究協議会の持ち方について
その他

第2回全県委員会

期 日 平成27年9月7日(月)
会 場 県立巻高等学校 会議室
参加者 部長・副部長・全県委員・事務局
協 議 各地区研究協議会及び全県研究協議会の
持ち方について

第3回全県委員会

期 日 平成28年1月21日(木)
会 場 県立巻高等学校 会議室
参加者 部長・副部長・全県委員・事務局
協 議 平成27年度事業報告及び決算報告
平成28年度事業計画
平成27年度部会誌編集状況報告
平成28年度各地区幹事校の選出
その他

2 全県研究協議会

期 日 平成27年11月9日(月)
会 場 燕三条地場産業振興センター
参加者 62名
講 演 「新潟県における危険ドラッグの現状と
条例について」
新潟県福祉保健部医務薬事課
薬事指導係主任 高木伸浩 様
研究協議 「各校の現状と課題について」
全体会 研究協議の報告
指導・助言
県高等学校教育課 青少年相談支援班
主査 田中茂雄 様

平成27年11月9日(月)
燕三条地場産業振興センター
全県研究協議会 講演会の様子
講師 新潟県福祉保健部医務薬事課
薬事指導係 主任 高木伸浩 様

3 地区研究協議会

(1) 中越地区研究協議会

期 日 平成27年10月22日(木)
会 場 長岡地区セミナーハウス
栖風会館
参加者 13名
講 演 「e-ネット安心講座ースマホチルドレン
問題と対処」
長岡技術科学大学 教授
山崎克之 様

実践発表

「塩沢商工高等学校における生徒指導の現状と実践」
県立塩沢商工高等学校教諭 遠藤拓也
「加茂農林高等学校 身だしなみ指導について」
県立加茂農林高等学校教諭 大久保健二

(2) 上越地区研究協議会

期 日 平成27年10月28日(水)
会 場 上越市民プラザ
参加者 23名
講 演 「少年非行の現状」
～家庭裁判所調査官の立場から～
新潟家庭裁判所 高田支部
主任家庭裁判所調査官 伊崎肥広 様

実践発表

「海洋高等学校の取り組み」
県立海洋高等学校教諭 猪又和幸
「本校の生徒指導の現状と課題」
関根学園高等学校教諭 庭山純一

4 刊行物

生徒指導部会誌第48号

図書館部会

1 総会

期日 平成27年8月21日(金)
会場 新潟県立生涯学習推進センター

2 講演会

i) 第一回講演会

期日 平成27年8月21日(金)
会場 新潟県立生涯学習推進センター
講演 木下通子 様
(埼玉県立春日部女子高校
図書館主任司書)

演題

『埼玉県高校図書館フェスティバル』から
見えてきたもの
他 ビブリアバトル実施

ii) 第二回講演会

期日 平成28年2月26日(金)
会場 新潟県立生涯学習推進センター
講演 横山 史江 様
(埼玉県立越谷総合技術高校
図書館司書)
講題 「学校図書館万華鏡
一見せよう図書館の魅力と力一」



3 研究調査

- i) 「The Library 高等学校図書館利用の手引き」の改訂・活用
- ii) 図書館の利用状況に関するアンケート
- iii) SLA 北信越地区大会への参加
- iv) NDC 分類別調査

4 刊行物

名称 「図書館部報 第60号」
(平成28年3月発行予定)
内容 研究大会報告、研究会参加報告、
研究論文
冊数 200冊(会員全員+全学校1部)

視聴覚部会

1 第62回NHK杯全国高校放送コンテスト県予選

兼第56新潟県高校放送コンテスト

期 日 平成27年6月17日(水)

会 場 新潟市音楽文化会館

参加者 204名(12校)

結 果

[アナウンス部門]

1位 山田ちひろ(新潟明訓・3年)

2位 笛木 瑞歩(新潟明訓・3年)

3位 西川 彩香(長岡商業・3年)

4位 伊藤 美優(新潟明訓・2年)

5位 堀 拓実(新潟明訓・3年)

6位 大塚 聖(中越・2年)

奨励 今井 優汰(新潟明訓・3年)

奨励 芳賀 柚月(新潟明訓・2年)

奨励 元井 玲香(長岡大手・2年)

[朗読部門]

1位 金澤 万莉(新潟明訓・3年)

2位 永松 梨奈(新潟明訓・3年)

3位 池田 大希(長岡商業・2年)

4位 高橋 佳生(新潟工業・3年)

5位 田中 亜実(長岡商業・2年)

6位 高橋 光(新潟明訓・3年)

奨励 藻谷 美月(新潟・3年)

奨励 五十嵐梨香(新潟明訓・2年)

[ラジオドキュメント部門]

1位 新潟高校

2位 新潟工業高校

3位 新潟明訓高校

4位 中越高校

[テレビドキュメント部門]

1位 新潟高校

2位 新潟明訓高校

3位 新潟工業高校

4位 中越高校

[創作ラジオドラマ部門]

1位 長岡商業高校

2位 新潟中央高校

3位 新潟工業高校

[創作テレビドラマ部門]

1位 新潟高校

2位 新潟明訓高校

3位 新潟工業高校

2 NHK杯全国大会出場者特別講習

期 日 平成27年6月27日(土)

会 場 NHK新潟放送局

参加者 12名(5校)

指導者 NHK新潟放送局 放送部副部長
アナウンサー 山田 貴幸 様

内 容 アナウンス・朗読技術の読み込み

3 第62回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会

期 日 平成27年7月20日(月・祝)

～23日(木)決勝

会 場 国立オリンピック記念青少年総合
センター・NHKホール

成 績 [テレビドキュメント部門]

[テレビドラマ部門]

共に制作奨励賞 新潟高校

4 放送技術者夏期講習会 兼

視聴覚・放送担当指導者講習会

期 日 平成27年8月17日(月)

～18日(火)

会 場 長岡温泉 湯元館

参加者 77名(6校)

指導者 福島県立磐城高等学校
中野 淳之 様

視聴覚部会顧問 和田 寛忠 様

内 容 アナウンス・朗読の原稿、番組制作の実
習

5 第35回QK杯校内放送コンクール

兼 第28回新潟県高等学校放送コンクール

期 日 平成27年11月17日(火)

会 場 長岡リリックホール・シアター

参加者 115名(8校)

結 果

[アナウンス部門]

1位 西原 蒼衣(長岡商業・2年)

2位 笛木 志歩(新潟明訓・1年)

3位 伊藤 美優(新潟明訓・2年)

奨励 大塚 聖(中越・2年)

奨励 伊藤梨乃彩(新潟明訓・1年)

奨励 庭野ほのか(新潟・1年)

[朗読部門]

- 1位 田中 亜美 (長岡商業・2年)
- 2位 五十嵐梨香 (新潟明訓・2年)
- 3位 高原 実佑 (中越・2年)
- 奨励 中野 咲 (長岡大手・2年)
- 奨励 池田 大希 (長岡商業・2年)
- 奨励 石田 馨子 (長岡大手・2年)

[ラジオ番組部門]

- 1位 新潟明訓高校
- 2位 新潟中央高校
- 3位 新潟高校

[テレビ番組部門]

- 1位 新潟工業高校
- 2位 長岡商業高校
- 3位 新潟明訓高校
- 奨励 新潟高校

定 通 部 会

I 定時制・通信制教育総合研究会

期 日 平成 27 年 7 月 28 日 (火)
会 場 NSG 学生総合プラザSTEP
当番校 荒川高等学校
参加者 163 名
主 題 「未来に向かって生徒の可能性を
拓く定時制・通信制教育の推進」

1 研究発表

(1) 学習指導・進路指導

「新潟翠江高校の進路指導の取組み」
新潟翠江高等学校 教諭 鈴木 一行 (定時制)
教諭 塩見 賢一 (通制)

(2) 生徒指導

「本校におけるいじめ発生時の対応と校内指導体制
(事例発表)」
長岡明德高等学校 教諭 小野 武彦

(3) 特別支援教育

「特別支援教育「キャリア教育・就労支援の充実」
堀之内高等学校 教諭 松井 武文

【指導助言】

高等学校教育課指導主事 田中謙一

2 講演

「夢と絆 ～拉致がうばっていったもの～」
新潟産業大学 准教授 蓮池 薫 様



II 役員会総会・理事会

<第1回>

期 日 平成 27 年 5 月 26 日 (火)
会 場 新潟翠江高等学校
議 事 平成 27 年度役員の委嘱について
報 告 平成 26 年度事業報告
平成 26 年度決算報告
協 議 平成 27 年度事業計画について
平成 27 年度予算について



<第2回>

期 日 平成 28 年 2 月 15 日 (月)
会 場 明鏡高等学校
報 告 平成 27 年度事業報告
平成 27 年度決算中間報告
協 議 平成 28 年度事業計画について
平成 28 年度定通総研について

III 各校情報交換会

期 日 平成 27 年 11 月 10 日 (火)
会 場 高田南城高等学校
参加者 61 名
内 容 (1) 授業見学・校舎見学
(2) 情報交換 (分科会)
①定時制教務
②通信制教務
③生徒指導・特別支援
④進路指導

III 県外視察

期 日 平成 27 年 11 月 12 日 (木)、
13 日 (金)
視察校 神奈川県立横浜明朋高等学校
東京都立一橋高等学校
埼玉県立戸田翔陽高等学校
参加者 3 名

IV 刊行物

実践集録 53 号 (平成 28 年 2 月 15 日発行)

高教研 国語部会 平成27年度事業報告

部長 荒木 佳樹

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	6月24日(水)	10月29日(木)	28年2月1日(月)
	場 所	高田北城高校	新潟高校	高陽荘
	研究会名称	運営委員会 代議員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	全国連関連の報告 H26年度事業報告等 H27年度事業計画等 全県研究協議会の 実施計画検討	思考力・判断力・表現力の育成 を目指した授業改善について 「これからの日本に必要な 言葉の教育」 ～「言語技術の有効性」～	H27年度活動の反省 H28年度活動計画 その他
	講師職氏名		つくば言語技術教育研究所 所長 三森ゆりか	
	研究発表 テーマ・職・氏名		① 論理的文章の表現実践 ～グループワークを通し た小論文学習～ 国際情報高校教諭 岩本和孝 ② アクティブ・ラーニング による思考の深化を目指 して ～小説『羅生門』の指導 から 柏崎工業高校教諭 阪本寛子 指導主事講評 県立教育センター 山本 寛 指導主事	
	参加者数	14名	74名	15名
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
入図書購	図書名数	特になし		
刊行研究成果 出版物出版	名 称	『国語研究』62集		
	主 な 内 容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

高教研 国語部会 平成28年度事業計画

部長 荒木 佳樹

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	6月22日(水)	10月28日(金)	29年1月
	場 所	小出高校	新発田高校	小出高校
	研究会名称	運営委員会 代議員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会 の実施計画	「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善について」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		講師未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名		発表者未定(2名) 指導主事講評 県立教育センター 山本 寛 指導主事	
参加者数	15名	約80名	15名	
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名数	特になし		
刊行物 研究成果版	名 称	『国語研究』63集		
	主 な 内 容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

高教研地理歴史・公民部会 平成27年度事業報告書

部長 武内 均

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
	期 日	7月3日(金)	7月14日(火)	8月3日(月) ・4日(火)
	場 所	新潟市万代市民会館	十日町高校	佐渡市
	研究会名称	総会・研究協議会	公民研究会 (兼金融教育協議会)	佐渡巡検
	研究会テーマ 「講演テーマ」	アクティブラーニングの取り組みについて 「アクティブラーニング時代への取り組みー教師を志した時の気持ちに立ち返ってー」	金融教育への取り組みと公開授業	金山を中心とする佐渡の歴史と現状 「佐渡金銀山の歴史と世界遺産登録に向けて」
	講師職氏名	上越教育大学 教授 西川 純様		佐渡市 世界遺産推進課 下谷 徹 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	実践報告 ○地理 小川 浩司 (村上桜ヶ丘) ○歴史 竹田 和夫 (新発田) ○公民 田中 一裕 (新潟江南)	公開授業 ○倫理 「ロールズ、富の再配分について」 風間 春菜 (十日町) ○政治・経済 「外国為替相場のしくみ」 澁谷 亮輔 (十日町)	巡検先 (初日) 両津港→昼食→佐渡金銀山→南沢疎水道→佐渡金銀山 (二日目) 佐渡博物館→大膳神社・能舞台→妙宣寺→真野御陵→真野歴史伝説館 (見学・昼食)→長谷寺→トキの森公園→両津港
	参加者数	36名	30名	20名
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	『地理歴史・公民研究』 第54集		
	主 内 容	研究会報告、研究論文、センター試験問題講評など		
	冊 数	330冊		

高教研 地歴・公民 部会 平成28年度事業計画（案）

部長 武内 均

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
	期 日	7月1日（金）	8月8日（月） ・9日（火）	未定
	場 所	新潟市内高校	新潟市秋葉区	未定
	研究会名称	総会・研究協議会	地理研究会	歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「主権者教育について（仮）」	地理教育に関する講演、巡検（新潟市秋葉区の歴史と産業）	「アクティブラーニング（仮）について」
	講師職氏名	明治大学特任教授 藤井 剛 様	獨協大学教授 秋本 弘章様	
	研究発表 テーマ・職・氏名	○公開授業 ○実践報告 ○研究協議 ○講演	○講演 ○巡検 石油の里公園～小須戸～総合車両製作所（旧JR東日本新津車両製作所）	○公開授業 ○研究協議
	参加者数	未定	未定	未定
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名数			
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	『地理歴史・公民研究』 第55集		
	主 内 容	研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、センター試験問題講評、地歴、公民の広場など		
	冊 数	330冊		

研究会・講習会等の開催	目 的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期 日	7 月 8 日 (水)	10 月 23 日 (金)	11 月 2 日 (月)	12 月 11 日 (金)
	場 所	長岡地区 (済美会館)	上越地区 (高田高校)	新潟地区 (新潟南高校および じょいあす新潟会館)	新潟地区 (じょいあす新潟会館)
	研 究 会 名 称	数学教育研究会	全県研究協議会兼北 陸四県数学教育研究 (上越) 大会	中高連絡協議会	地区研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「 講 演 テ ー マ 」	高等学校にお ける数学教育の諸 問題について 「21世紀における数 理学の動向と高等 学校における数学教 育に期待すること」	数学的な思考力・ 表現力を育て、学 ぶ意欲を高める数 学教育 「“主体的に学ぶ”文 化を創出する算数・教 学の指導」	教科における中高の指 導法について 「授業改善の視点につ いて」	高等学校におけ る数学教育の諸 問題について 「-2015年-整数の諸 問題-」
	講 師 職 氏 名	新潟大学大学院 自然科学研究科教授 田中 環 氏	茨城大学大学院 教育学研究科教授 根本 博 氏	県立教育センター 教育支援課指導主事 西村 健一 氏	中央大学理工学部 経営システム工学科 教授 藤田 岳彦 氏
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	「新潟大学の入試問 題の分析について」 直江津中等教育学校 教諭・竹田 光	「「解の配置」の指導 について」 十日町高校 教諭・中島 雄 藤巻 幹博 「新潟大学の入試問題 の分析について」 直江津中等教育学校 教諭・竹田 光	各授業者による公開授 業の説明と質疑 新潟南高等学校 教諭・阿部 浩治 他	「「数学を学ぶ必要性 を知り、主体的に学ぶ 生徒の育成」-数学を 通して身につけられ る能力についての話 を通して-」 新潟商業高校 教諭・松崎大輔
	参 加 者 数	6 8 名	8 2 名	高校29名、中学30名	6 3 名
研究 調 査	主 要 テ ー マ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開			
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	県内各高等学校			
購 入 図 書	図 書 名 冊 数	「解いてわかるガロア理論」「大学生の確率・統計」 「統計学基礎」「平面幾何パーフェクトマスター」各1冊			
	名 称	『数学教育研究集録』第54号			
刊 行 物 出 版	主 な 内 容	会員の実践研究、研究大会報告及び講演内容			
	冊 数	350冊			

高教研 数学部会 平成28年度事業計画

部長 上杉 肇

研究会・講習会等の開催	目 的	学力の向上を目指した数学教育の研究		
	期 日	6月(予定)	10月(予定)	12月(予定)
	場 所	高田地区 (未定)	新潟地区 (未定)	長岡地区 (未定)
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	高等学校における 数学教育の諸問題 について 「未定」	高等学校における数学 教育の諸問題について 「未定」	高等学校における数 学教育の諸問題につ いて 「未定」
	講 師 職 氏 名	未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	「新潟大学入試問題 の分析について」 (予定) 未定	未定	未定
	参加者数	80名(予定)	80名(予定)	80名(予定)
研究調査	主要テーマ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開		
	調査の期日 場所・参加者数	県内各高等学校		
図書購入	図 書 名 冊 数			
刊 行 研 究 物 成 果 出 版	名 称	『数学教育研究集録』第55号		
	主 な 内 容	会員の実践研究, 研究大会報告及び講演内容		
	冊 数	350冊		

高教研 理科 部会 平成 27 年度事業報告

部長 高倉 総

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期 日	7月6日 (月)	10月28日 (水)	11月9日 (月)	11月26日 (木)
	場 所	新潟医療福祉大学	新潟田市生涯学習センター	十日町情報館	巻高校
	研究会名称	第1回役員会	生物教育研究会	地学教育研究会	化学教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「バイオメカニクスに関すること」	「生態学の最新動向」	「中越地域の地層が意味すること～地層と地震との関係など～」	「化学基礎・化学における教科書の記述に対する提案」
	講師職氏名	新潟医療福祉大学 江原 義弘 氏	新潟大学理学部 石崎 智美 氏	新潟大学理学部 豊島 剛志 氏	東京理科大学理学部 井上 正之 氏
	研究発表 テーマ・職・氏名	H26事業報告・決算報告 H27事業計画・予算案 学内の施設見学	「サイエンスリーダーズキャンプに参加して」(万代高校 相馬泰)「位相差顕微鏡による原形質流動Ⅱ」(新潟西高校 佐藤政雄)「実物投影機及びタブレット端末の活用について」(長岡明德高校 古田島貴之)「普通科における課題解決の実践例～学校設定科目「ESD探究」での理科の取り組み」(新潟田高校 石本由夏)	巡検会(十日町市内の地層)	「佐渡金山での金の製錬について～金鉱石が小判になるまで～」(佐渡高校 富樫亮)「主体的・協働的な学びの実践例」(新潟県立教育センター 大平和之)
	参加者数	22名	21名	9名	23名
	期 日	12月15日 (火)	2月17日 (水)		()
	場 所	長岡高校	上越科学館		
研究会名称	物理教育研究会	第2回役員会			
研究会テーマ 「講演テーマ」	「振動測定システムや電子素子の原理と利用」	「理科の実験について」			
講師職氏名	長岡技術科学大学 河合 晃 氏	上越科学館 永井克行 氏			

	研究発表 テーマ・職・氏名	「物理基礎における反転授業の実践」(加茂暁星高校 坂田洋史) 「生徒の思考と交流を促す学習課題の検討」(新潟県中央工業高校 山本岳) 「SSHの実施状況と課題」(長岡高校 本田崇)	H27事業報告・決算報告 H28事業計画 施設見学		
	参加者数	19名	20名		
研究調査	主要テーマ	新カリキュラムの研究・対応した活用集の改定作業			
	調査の期日場所・参加者数				
図書	図書名・冊数				
研究 成果 刊 行 物	名称・内容・冊数	「理科研究集録」第55号・講演、研究成果の発表・350冊			

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期 日	6, 7月 ()	()	()	()
	場 所	未定			
	研究会名称	第1回役員会	物理研究会	化学研究会	生物研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	平成28年度活動計画・予算案 「 」	未定 「 」	未定 「 」	未定 「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
	期 日	()	2月 ()	()	()
	場 所				
	研究会名称	地学研究会	第2回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定 「 」	平成29年度活動計画 「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書	図書名・冊数				
刊 成 行 果	名称・内容・冊数	理科研究集録 第56号 350冊			

高教研 芸術部会 平成27年度事業報告書

部長 坂下 忠士

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術・工芸		書道
	期 日	6月19日(金) 10月21日(水)	2月3日(水)	8月17日(月)	11月12日(木)	12月2日(火)
	場 所	アトリウム長岡 県立小千谷高校	県立 新潟中央高校	県立近代美術館	妙高市立 新井中学校	県立教育センター
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術・工芸科 研修会	第30回 県美連研究大会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	<6月>総会・分科会 ・講演会 講演テーマ「時代は 大きく動いている ～造形教育について」	ロシアンメソッド ピアノレッスン見 学 音楽棟施設説明・音 楽科講師による1 年生主専攻レッス ン見学	鑑賞教育につ いて	「かかわる かわる つな ぐ 造形教育」 講演テーマ 「コミュニケーション ンを作る～創造する 力と想像する心」	授業研究会
	講師職氏名	前長岡造形大学理事長 豊口 協		県立近代美術館 宮下 東子	CMディレクター 中島 信也	
	研究発表 テーマ・職・氏名	<10月>公開授業 ※小千谷高校にて 実施(文科省指定事 業に係る公開授業 において実施)	新潟中央高等学校 音楽科の取り組み と課題について	対話型鑑賞の 教授法につい て	第2分科会 「地域・美術館」 長岡商業 霜鳥健二教諭 「生涯にわた り美術を愛好 する心構えを 育て、創造的 な表現と鑑賞 の能力を伸ば す授業」	A: 古典に学ぶ「造像 記」進行: 狩野芳明(県 央工業) / 記録: 加藤 亜希子(新潟翠江) B: 唐の四大家 顔真 卿「顔法」進行: 阿部 理恵(新津南) / 記 録: 藤原香代子(新潟 西) C: 「仮名の書」の学 習 進行: 成田年樹(十日町) / 記録: 松本 直美(堀之内)
	参加者数	38名	15名	15名	11名	16名
	研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数					
図書購入	図書名冊数					
研究成果 刊行物版	名 称	平成27年度高教研芸術部会報告				
	主 な 内 容	総会・研究協議会及び各科研修会の報告・まとめ				
	冊 数	90部				

高教研 芸術部会 平成28年度事業計画 (案)

部長 坂下 忠士

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる			
	教科	全体	音楽	美術・工芸	書道
	期日	6月	12月(予定)	8月(予定)	12月(予定)
	場所	県立常盤高等学校	未定	上越地区の 高等学校	新潟市(予定)
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術・工芸科研修会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	総会・公開授業 研究協議会 分科会 (講演会なし)	未定	実技研修会 「ガラス工芸」	授業研究会
	講師職氏名		未定	丸山淳代	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	【音楽】 【美術】 【書道】	未定	未定	未定
参加者数	80名	20名	21名	28名	
研究調査	主要テーマ	未定			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書冊数	未定			
刊行物出版 研究成果	名称	平成28年度高教研芸術部会報告			
	主内容	総会・研究協議会及び各科研修会の報告・まとめ			
	冊数	90部(会員数が80名以上の場合は100部)			

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上		
	期 日	8月17日(月)	10月28日(水)	3月5日(土)
	場 所	デンカビッグスワンスタジアム会議室	県立高田北城高等学校高陽荘	じょいあす新潟会館
	研究会名称	夏季研修会	全県英語科研究会	英語授業力向上セミナー
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上 ワークショップ （「授業のおもしろさとは何か～生徒のためにしてあげられることは？」）	英語教育の推進と向上 「一億人の英会話」	英語教育の推進と向上 「求められる英語授業づくり～自立したため学習者を育てるために」
	講師職氏名	前田 由紀恵 先生 新潟高等学校教諭	大西 泰斗 先生 東洋学園大学教授	牧 寛子 先生 文部科学省初等中等局教科書課教科書調査官
	研究発表 テーマ・職・氏名	高等学校実践発表 栗本 美紀 （長岡向陵高校） 県外派遣報告 長谷川 聡 （新潟高校）	分科会発表 「4技能の指導」 立川 勝則 教諭 （高田高校） 「動機付け・学習支援」 市川 操 教諭 （巻総合高校） 「授業改善の工夫」 小林 将大 教諭 （佐渡中等教育学校）	中学校実践発表 入之内昌徳 （茨城県笠間市教育委員会指導主事） 高等学校実践発表 箕浦麻里 （愛知県立瀬戸北総合高校）
参加者数	97名	160名	120名	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入書	図書名数 冊数			
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	英語部会誌 第60号		
	主 内 容	研修会報告、研究会報告		
	冊 数	350部		

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上	
	期日	10月10日(土)	11月14日(土)
	場所	柏崎エネルギーホール(上・中越) 県立生涯学習センター(下越・佐渡)	県立生涯学習センター
	研究会名称	高校生英語スピーチコンテスト予選	高校生英語スピーチコンテスト本選
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	「 」
	講師職氏名		
	研究発表 テーマ・職・氏名		
	参加者数	76名	20名
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日場所・参加者数		
図書購入	図書名・冊数		
研究 刊行 成果	名称・内容・冊数		

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上	
	期日	10月24日(土)	
	場所	柏崎エネルギーホール(上・中越) 県立生涯学習センター(下越・佐渡)	
	研究会名称	高校生英語ディベートコンテスト	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	
	講師職氏名		
	研究発表 テーマ・職・氏名		
	参加校数	5校8チーム	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日場所・参加者数		
図書購入	図書名・冊数		
刊行 研究成果	名称・内容・冊数		

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	8月上旬	10月下旬	10月	11月
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	夏季研修会	全県英語科研究会	高校生スピーチコンテスト（予選）	高校生スピーチコンテスト（本選）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上 「未定」	英語教育の推進と向上 「未定」	「未定」	「未定」
	講師職氏名	未定	未定		
	研究発表 テーマ・職・氏名	実践発表 県内英語科 3教諭	「4技能の指導」 「動機付け・学習支援」 「授業改善の工夫」 県内英語科 3教諭		
	参加者数	100名	150名		
研究調査	主要テーマ	予定なし			
	調査の期日 場所・参加者数	予定なし			
図書購入	図書名数	予定なし			
刊行物出版 研究成果	名称	「英語部会誌」 61号			
	主内容	研修会報告、研究会報告、寄稿			
	冊数	350部			

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	8月24日(月)	10月6日(火)	12月3日(木)
	場所	じょいあす新潟会館	食育・花育センター	じょいあす新潟会館
	研究会名称	農業教育研究大会 (高田農業)	農業教育課題研究会 (草花) (長岡農業)	農業教育課題研究会 (進路) (新発田農業)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「日本の農業を拓く 農業教育を創造しよう！」 「今、農業が面白い！！ 日本農業の可能性」	科目「草花」における栽培管理の方法、生育診断について	「国公立大学・難関私立大学への進学希望者の進路実現に向けて」
	講師職氏名	株式会社 新潟クボタ 代表取締役社長 吉田至夫様	食育・花育センター 園芸指導員 荒木 義彰様	国立大学法人新潟大学 農学部入学試験実施委員長 中野 和弘様
	研究発表 テーマ・職・氏名	第1分科会 「外部機関との連携による人材育成」 第2分科会 「国公立大学への進学指導のあり方」 第3分科会 「食品事故防止」	「球根植物の種類と栽培について」	「大学は農業高校からの推薦者に何をのぞむのか」
参加者数	64名	18名	17名	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名数			
刊行物出版 研究成果	名称	『新潟県農業教育研究会誌』第50号 (加茂農林高校)		
	主内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	170冊		

高教研 農業部会 平成28年度事業計画（案）

部長 竹内 公英

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期 日	平成28年 8月9日（火）～10日（水）	未定	未定
	場 所	万代シルバーホテル	未定	未定
	研 究 会 名 称	農業教育研究大会（高田農業） 農場協会北信越支部大会（新発田農業）	農業教育課題研究会 （長岡農業高等学校）	農業教育課題研究会 （新発田農業高等学校）
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	地方創生の核となるべき農業教育を 推進しよう	未定	未定
	講 師 職 氏 名	未定	未定	未定
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	未定	未定	未定
	参 加 者 数	未定	未定	未定
研究調査	主 要 テ ー マ			
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数			
図書購入	図 書 名 冊 数			
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	『新潟県農業教育研究会誌』第51号（加茂農林高等学校）		
	主 内 容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊 数	170冊		

高教研 工業 部会 平成 27 年度事業報告書

(見学会・講習会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	7月3日(金)	8月21日(金)	10月6日(火)	10月6日(火)
	場所	(株)総合車両製作所	東京パワーテクノロジー(株)	新潟県立新潟商業高等学校	新潟港西港
	研究会名称	機械・電子機械系見学会	工業化学系見学会	建築系見学会	土木系見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	(株)総合車両製作所見学会	東京電力柏崎刈羽原子力発電所	新潟県立新潟商業高等学校改修工事	新潟港西港視察
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	23名	12名	21名	18名
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県高等学校工業教育紀要 第52号			
	主 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成27年度研究集録			
	冊 数	220冊			

高教研 工業 部会 平成 27 年度事業報告書

(見学会・講習会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	10月14日(水)	1月19日(火)		
	場 所	上越教育大学	新潟工科大学		
	研究会名称	電気・電子系 見学会	ロボット技術 研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	上越教育大学情報メディア教育 支援センター見学会	ロボット技術 研究議会		
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
参加者数	15名	名			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県高等学校工業教育紀要 第52号			
	主 内 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成27年度研究集録			
	冊 数	220冊			

(研究会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	8月21日(金)	10月5日(月)	10月5日(金)	10月13日(火)
	場 所	柏崎工業高校	じょいあす新潟会館	じょいあす新潟会館	上越総合技術高校
	研究会名称	工業化学系研究会	建築系講演会	土木系講演会	機械・電子機械系研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	工業化学系研究会	「建築学生の海外就職について」	「中越復興の経験と教訓」	機械・電子機械系研究会
	講師職氏名		長岡造形大学 山下秀之教授	新潟県建築士会 渡辺 斉 理事	
	研究発表 テーマ・職・氏名				柏崎工業高校 島倉康幸教諭 上越総合技術高校 八木丈人教諭
	参加者数	12名	21名	21名	20名
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書冊数				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県高等学校工業教育紀要 第52号			
	主 内 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成27年度研究集録			
	冊 数	220冊			

高教研 工業 部会 平成 27 年度事業報告書

(研究会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月14日(水)			
	場所	上越教育大学			
	研究会名称	電気・電子系研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	中・高校一貫した技術教育、情報教育			
	講師職氏名	上越教育大学大学院 山崎貞登教授			
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	15名			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要 第52号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成27年度研究集録			
	冊数	220冊			

高教研 工業 部会 平成 28 年度事業計画 (案)

(見学会・講習会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	7月1日(金)	10月6日(木)	10月6日(木) ・7日(金)	10月6日(木) ・7日(金)
	場 所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	電気・電子系見学会	機械・電子機械系見学会	建築系見学会	土木系見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	小型風力発電装置の見学会	工場見学会	「建設現場と教育現場との関わり」	「建設現場と教育現場との関わり」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県高等学校工業教育紀要 第53号			
	主 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成28年度研究集録			
	冊 数	220冊			

高教研 工業 部会 平成 28 年度事業計画 (案)

(見学会・講習会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	10月上旬	7月1日(金)	()	()
	場 所	未定	未定		
	研究会名称	工業化学系見学会	ロボット技術研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	ロボット技術研究協議会		
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県高等学校工業教育紀要 第53号			
	主 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成28年度研究集録			
	冊 数	220冊			

高教研 工業 部会 平成 28 年度事業計画 (案)

(研究会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	7月1日(金)	8月上旬	10月6日(木)	10月6日(木) ・7日(金)
	場 所	未定	未定	未定	未定
	研 究 会 名 称	電気・電子系研究会	工業化学系研究会	機械・電子機械系研究会	土木系研究会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	発電装置の蓄電機と制御システムの研究会	未定	機械・電子機械系教材研修会	「これからの工業教育について」
	講 師 職 氏 名				
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名				
	参 加 者 数				
研究調査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図書購入	図 書 名 数				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県高等学校工業教育紀要 第53号			
	主 内 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成28年度研究集録			
	冊 数	220冊			

高教研 工業 部会 平成 28 年度事業計画（案）

（研究会の部）

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月6日（木） ・7日（金）			
	場所	未定			
	研究会名称	建築系研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「これからの工業教育について」			
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
参加者数					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要 第53号			
	主要内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成28年度研究集録			
	冊数	220冊			

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育
	期日	平成27年11月17日(火)
	場所	柏崎総合高等学校 株式会社ブルボン本社
	研究会名称	「ビジネス分野」研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「商品開発について」
	講師職氏名	株式会社ブルボン 総合企画室商品開発室室長 杉山 篤 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	公開授業 科目：「商品開発」(3年次) テーマ：開発商品の試作品の評価・改善 グループ討議 教諭 小林琢磨 横山範男
参加者数	10校 18名	
研究調査	主要テーマ	
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名数	
刊行研究成果 出版物版	名称	『新潟県商業教育』第51号
	主内容	1. 研究論文 2. 実務競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. その他
	冊数	147冊

研究会・講習等の開催	目 的	経済社会の発展を担う商業教育
	期 日	11月
	場 所	新発田商業高校
	研 究 会 名 称	未定
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	未定
	講 師 職 氏 名	
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	
参 加 者 数		
研 究 調 査	主 要 テ ー マ	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	
図 購 書 入	図 書 名 冊 数	
研 究 成 果 出 版 刊 行 物 の	名 称	『新潟県商業教育』第52号
	主 内 容	1. 研究論文 2. 実務競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. その他
	冊 数	400冊

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展をめざして
	期日	平成27年12月3日(木)
	場所	県立海洋高等学校(大会議室)
	研究会名称	平成27年度水産教育研究会
	研究会テーマ「講演テーマ」	先進的な水産・海洋教育の充実
	講師職氏名	
	研究発表テーマ・職・氏名	研修報告「HACCP責任者養成研修に参加して」 新潟県立海洋高等学校 教諭 松本 将史 全水研発表・報告等 新潟県立海洋高等学校 校長 久保田 郁夫 教諭 矢口 沙保里
	参加者数	25名
研究調査	主要テーマ	平成27年度 農林水産省補助事業 「HACCP責任者養成研修」
	調査の期日 場所・参加者数	平成27年10月19, 20, 26, 27日(全4日間) JA長野県ビル・50名
図書購入	図書名数	平成27年潮汐表(第1巻)、平成27年潮汐表(第2巻)、平成28年潮汐表(第1巻)、平成28年潮汐表(第2巻)、最近3か年四級海技士(航海)800題28年度版、特技問題解答集、やさしく学ぶAutoCAD、水産と海洋の科学、水産海洋基礎、潜水士試験問題、食品衛生検査指針2015、淡水魚研究入門、淡水魚、日本産魚類生態大図鑑、日本産魚類全種の学名、イトウの養殖技術、魚類の初期生活史研究 全17冊
刊行研究成果出版	名称	平成27年度 水産教育研究
	主内容	平成27年度 水産教育研究のまとめ
	冊数	50冊

高教研 水産 部会 平成 28 年度事業計画 (案)

部長 久保田 郁夫

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展をめざして			
	期 日	H28年 12月 1日 (木)	()	()	()
	場 所	糸魚川市			
	研究会名称	平成28年度 水産教育研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	先進的な水産・海洋 教育の充実	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	研究調査・研修等に 関わる報告会他			
参加者数	40名				
研究調査	主要テーマ	未定			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名数				
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	平成28年度 水産教育研究			
	主 内 容	研究成果報告			
	冊 数	50冊			

研 究 会 ・ 講 習 会 等 の 開 催	目 的	家庭科教育の充実と発展	
	期 日	8月10日(月)	12月1日(火)
	場 所	燕三条地場産業振興センター メッセピア	長岡大手高等学校
	研 究 会 名 称	全県講習会	部会委員会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	実践力を育てる生徒参加型授業 1 講演・実習 「家庭科教育における防災学習」 2 講演・演習 「学校における消費者教育の推進に向けて ～授業を効果的に進めるために～」	1 報告・計画 平成27年度事業報告 平成28年度事業計画 2 講習会 「保育技術検定 造形表現技術について」
	講 師 職 氏 名	講演1 特定非営利活動法人 新潟ボランティアネットワー ^ク 理事 事務長 李 仁鉄 様 講演2 公益財団法人 消費者教育支援センター ^{カキのしげみ} 総括主任研究員 柿野 成美 様	新潟県立巻総合高等学校 教諭 小川 浩子
研 究 発 表 テーマ・職・氏名			
	参 加 者 数	37名	66名
研 究 調 査	主 要 テ ー マ		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数		
図 書 入	図 書 名 数 冊		
刊 行 物	名 称	家庭科研究51号	
	主 な 内 容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊 数	180冊	

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	8月（予定）	12月1日（木）
	場所	中越地区（予定）	長岡大手高等学校
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	報告・計画 平成28年度事業報告 平成29年度事業計画 その他未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数		
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書冊数		
刊 研究 行 成果 物 出版	名 称	家庭科研究52号	
	主 内 容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊 数	160冊	

高教研保健体育部会 平成27年度事業報告書

部長 柴田 圭介

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	11月26日(木)	10月20日(火)
	場所	十日町高校 (十日町市)	じょいあす新潟会館 (新潟市)
	研究会名称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	スポーツ障害の対処法 「学校体育活動における障害の発生とその予防」	養護教諭の行う健康相談における省察の効果 「健康相談の高度実践化をめざしてー省察の考え方・進め方ー」
	講師職氏名	医療法人社団 K O S M I こん整形外科クリニック 理事長・院長 近 良明	上越教育大学大学院 学校教育研究科准教授 留目 宏美
	研究発表 テーマ・職・氏名	魅力ある授業展開 「体づくり運動の実践発表」 十日町高校 教諭 関井 徹	なし
参加者数	54名	95名	
研究調査	主要テーマ	新潟県高等学校教育研究会保健体育部会加入依頼とアンケート	
	調査の期日 場所・参加者数	平成27年9月7日(月) 全県の高校に発送	
図書購入	図書名数	なし	
研究成果 刊行物の出版	名称	研究集録 第51集	
	主内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	0部・・・HPに掲載	

高教研保健体育部会 平成28年度事業計画（案）

部長 柴田 圭介

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	12月上旬	10月下旬
	場所	県立高等学校	県立高等学校
	研究会名称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	授業の実際 「男性教諭が指導するダンス授業の実際について」	全県の養護教諭が研修したい内容を精査し、内容を決定する予定
	講師職氏名	東海大学体育学部教授 中村 なおみ	全県の養護教諭が研修したい内容を精査し、講師を決定する予定
	研究発表 テーマ・職・氏名	魅力ある授業展開 未定	なし
	参加者数	50名	100名
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書入	図書名数	なし	
研究 成果 刊 行 物 の 出 版	名称	研究集録 第52集	
	主内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	0部・・・HPに掲載	

高教研 生徒指導 部会 平成 27 年度事業報告書

部長 本田雄二

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽		
	期 日	10月22日（木）	10月28日（水）	11月9日（月）
	場 所	長岡地区セミナーハウス 栖風会館	上越市民プラザ	燕三条地場産業振興センター
	研究会名称	中越地区研究協議会	上越地区研究協議会	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策 「e-ネット安心講座—スマホチルドレン問題と対処」	生徒指導の課題と対策 「少年非行の現状」～家庭裁判所調査官の立場から～	生徒指導の課題と対策 「新潟県における危険ドラッグの現状と条例について」
	講師職氏名	長岡技術科学大学教授 山崎克之 様	新潟家庭裁判所高田支部 主任家庭裁判所調査官 伊崎肥広 様	新潟県福祉保健部 医務薬事課薬事指導係 主任 高木伸浩様
	研究発表 テーマ・職・氏名	実践発表 「塩沢商工高等学校における生徒指導の現状と実践」 塩沢商工高等学校教諭 遠藤拓也 「加茂農林高等学校身だしなみ指導について」 加茂農林高等学校教諭 大久保健二	実践発表 「海洋高等学校の取り組み」 海洋高等学校教諭 猪又和幸 「本校の生徒指導の現状と課題」 関根学園高等学校教諭 庭山純一	研究協議 「各校の現状と課題」 全体会 ・研究協議報告 ・指導助言 県高等学校教育課 青少年相談支援班 主査 田中茂雄 様
	参加者数	13名	23名	62名
研究調査	主要テーマ	「育てる生徒指導・・・教師は生徒とどう関わるべきか」～生徒を取り巻く環境への理解～		
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を3回実施 場所：県立巻高等学校 会議室 第1回（7月2日22名）第2回（9月7日21名）第3回（1月21日17名）		
購入書	図 冊 書 名 数	なし		
行 研 物 究 出 成 版 果	名 称	生徒指導部会誌 第48号		
	主 内 容	研究内容・資料・部会活動報告		
	冊 数	400冊		

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽		
	期 日	未定	未定	未定
	場 所	未定	未定	未定
	研究会名称	中越地区研究協議会	上越地区研究協議会	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策	生徒指導の課題と対策	生徒指導の課題と対策 「障害者差別解消法 施行にともなう合理的 配慮の実践について (仮)」
	講師職氏名	未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定	未定
	参加者数			
研究調査	主要テーマ	育てる生徒指導……教師は生徒とどう関わるべきか		
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を中心に3回会議を行う 場所：県立巻高等学校 参加予定数 26名		
図書購入	図書 冊数	なし		
刊 行 物 成 果 行 物 出 版	名 称	生徒指導部会誌 第49号		
	主 内 容	研究内容・資料・部会活動報告		
	冊 数	350～400冊		

部長 坂下 忠士

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方	
	期 日	8月21日(金)	2月26日(金)
	場 所	県立生涯学習推進センター	県立生涯学習推進センター
	研究会名称	高教研図書館部会 総会・講演会	高教研図書館部会 講演会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	・「『埼玉県高校図書館フェスティバル』から見えてきたもの」 ・ビブリオバトル実施	「学校図書館万華鏡 --見せよう図書館の魅力と力--」
	講師職氏名	木下 通子 様 (埼玉県立春日部女子高等学校 図書館主任司書)	横山 史江 様 (埼玉県立越谷総合技術高校 図書館司書)
	研究発表 テーマ・職・氏名		
参加者数	16名	未定	
研究調査	主要テーマ	1. 『The Library』の今後の活用について 2. 図書館の利用状況に関するアンケート 3. SLA北信越地区大会への参加 4. NDC分類別調査	
	調査の期日 場所・参加者数	1. 県内高等学校図書館において適宜行う 2. メールにて調査依頼	
購入図書	図書名数	未定	
刊 研究 行 究 物 成 出 果 版	名 称	『図書館部報』第60号	
	主 内 容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等	
	冊 数	200冊	

高 教 研 図 書 館 部 会 平 成 2 8 年 度 事 業 計 画 (案)

部 長 坂 下 忠 士

研究会・講習会等の開催	目 的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方		
	期 日	5月	7月	12月
	場 所	未定	未定	未定
	研 究 会 名 称	高教研 図書館部会 幹事会	高教研 図書館部会 総会・講演会	高教研 図書館部会 講演会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「今年度の運営について」	未定	未定
	講 師 職 氏 名			
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名			
	参 加 者 数			
研究調査	主 要 テ ー マ	1. 『The Library』の今後の活用について 2. 図書館の利用状況に関するアンケート 3. SLA北信越地区大会への参加		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	1. 県内高等学校図書館において適宜行う 2. メールにて調査依頼		
図書購入	図 書 名 冊 数	未定		
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	『図書館部報』第61号		
	主 内 容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等		
	冊 数	200冊		

部長 齋藤 友紀雄

研究会・講習会等の開催	目的	生徒に多様なメディア情報を的確に処理する能力の育成を図るため、教師の力量を高める。			
	期日	6月17日(水)	6月27日(土)	8月17(月)～18(火)	11月17日(火)
	場所	新潟市音楽文化会館	NHK新潟放送局	長岡市湯元館	長岡リリックホール・シアター
	研究会名称	NHK杯全国高校放送コンテスト新潟県大会	NHK杯全国大会出場者特別講習	放送技術者夏期講習会	QK杯校内放送コンクール
	研究会テーマ 「講演テーマ」	情報発信としての放送活動の発展をはかる	県代表として全国大会の成果向上をはかる	「放送活動の地域への広がりと貢献」「放送技術の指導方法の実際」	次世代を担う放送活動の啓発をはかる
	講師職氏名	NHK他 高文連専門部役員	NHKアナウンサー	磐城高校教諭 中野淳之 高文連専門部役員	高文連専門部役員
	研究発表 テーマ・職・氏名	アナウンス 朗読 番組制作	アナウンス 朗読	アナウンス 朗読 番組制作	アナウンス 朗読 番組制作
	参加者数	204名	12名 (県大会入賞者)	夏期講習77名 顧問研修10名	115名
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果 出版物 版	名称	「視聴覚教育研究」第53号			
	主内容	実践研究報告 平成27年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約			
	冊数	100冊			

部長 齋藤 友紀雄

研究会・講習会等の開催	目的	生徒に多様なメディア情報を的確に処理する能力の育成を図るため、教師の力量を高める。			
	期日	6月15日(水)	6月18日(土)	8月17日(火) 18日(水)	11月14日 (月)
	場所	新潟市音楽文化会館	NHK新潟放送局	長岡市湯元館(予定)	長岡リリックホール・シアター
	研究会名称	NHK杯全国高校放送コンテスト新潟県大会	NHK杯全国大会出場者特別講習	放送技術者夏期講習会	QK杯校内放送コンクール
	研究会テーマ 「講演テーマ」	情報発信としての放送活動の発展をはかる	県代表として全国大会の成果向上をはかる	「放送技術の指導方法の実際」	次世代を担う放送活動の啓発をはかる
	講師職氏名	NHK他 高文連専門部役員	NHKアナウンサー	高文連専門部役員	高文連専門部役員
	研究発表 テーマ・職・氏名	アナウンス 朗読 番組制作	アナウンス 朗読	アナウンス 朗読 番組制作	アナウンス 朗読 番組制作
参加者数	200名	12名	80名	100名	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	「視聴覚教育研究」第54号			
	主内容	実践研究報告 平成28年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約			
	冊数	100冊			

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	平成27年7月28日(火)	平成27年11月10日(火)
	場所	NSG学生総合プラザSTEP	高田南城高等学校
	研究会名称	平成27年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会	平成27年度 新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会 各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「夢と絆 ～拉致がうばっていったもの～」	県内 定時制・通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	新潟産業大学 准教授 蓮池 薫	
	研究発表 テーマ・職・氏名	① 学習指導「新潟翠江高校の進路指導の取組み」 新潟翠江高等学校 教諭 鈴木 一行(定時制) 教諭 塩見 賢一(通信制) ② 生徒指導「本校におけるいじめ発生時の対応と校内指導体制(事例発表)」 長岡明德高等学校 教諭 小野 武彦 ③ 特別支援教育「キャリア教育・就労支援の充実」 堀之内高等学校 教諭 松井 武文	① 定時教務 ② 通信制教務 ③ 生徒指導・特別支援教育 ④ 進路指導
参加者数	163人(高校教員161人、県教委2人)	61人	
研究調査	主要テーマ	先進校視察(教育課程、生徒指導、特別支援教育など)	
	調査の期日 場所・参加者数	平成27年11月12日(木)、13日(金) 視察校 神奈川県立横浜明朋高等学校、東京都立一橋高等学校、 埼玉県立戸田翔陽高等学校 参加者 3名	
図書購入	図書名数		
刊 研究 行 成果 物 出版 出 版	名称	実践集録 53号	
	主内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告	
	冊数	380冊	

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	平成28年7月26日（火）	未定
	場所	NSG学生総合プラザSTEP	長岡明德高等学校
	研究会名称	平成28年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会	平成28年度 新潟県高等学校定時制 ・通信制教育研究協議会 各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「I believe 信じる未来へ ～不登校から定時制高校（明鏡高校）、そして、今～」	県内 定時制・通信制高 等学校情報交換会
	講師職氏名	(株)リクルートマーケティングパートナーズ進学事業本部 営業統括部営業2部 東北グループ 山本 一輝	
	研究発表 テーマ・職・氏名	① 学習指導・進路指導 ② 生徒指導 ③ 特別支援教育 発表：荒川高等学校教諭 出雲崎高等学校教諭 明鏡高等学校教諭	未定
	参加者数	160人	50人
研究調査	主要テーマ	先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調査の期日 場所・参加者数	未定	
図書購入	図書名数		
刊行研究成果 出版物 版	名称	実践集録 54号	
	主内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告	
	冊数	380冊	

平成 27 年度 新潟県高等学校教育研究会理事会議事録

日 時 平成 27 年 5 月 13 日 (水) 13:30～15:00

会 場 新潟南高等学校 視聴覚教室

開 会 吉田 保夫 (新潟南高等学校副校長)

1 会長挨拶 青山 一春 会長 (新潟南高等学校長)

今朝、地震があったが、新潟県は震度 2 で、大きな被害はなかった。しかし、まだ東日本大震災が続いていることを改めて感じた。まだ各校に震災で避難されている方もいるが、心を尽くしていきたい。

新潟県高等学校教育研究会は、昭和 23 年に設立され、今年で 67 年目になる。本県の後期中等教育に携わる教職員の研究・研修の活動の一端を担っており、その役割については今後も変わらない。

新しい学習指導要領 (現行学習指導要領) となり、各学校とも全学年の生徒がこの学習指導要領で学んでいる状況であり、改めてこの学習指導要領について確認したいというのが、私の今年の考えである。

平成 21 年度に告示された現行学習指導要領は、子供たちの現状を踏まえた上で生きる力を育むという理念のもと、基礎的・基本的な知識や技能を習得し、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を主体的に学習すると共に、これらの育成を重視した教育を進めていくというものであり、高等学校においても平成 25 年度入学生から実施されている状況である。その中身については、特に国語を始めとする各教科等で、評価・論述・討論などの言語活動を充実することによって、思考力・判断力・表現力等を効果的に育成するよう求めていることが特色である。

学習指導要領の理念を実現していく上では、各高等学校が学習指導要領における各教科・科目における狙いを踏まえつつ各学校で定めた教科・科目の目標や内容を明確に示した上で、個々の生徒の学習評価を実質化することによって指導の改善を図り、生徒一人ひとりの資質能力を伸ばさせていくということが重要になってくる。

このことを踏まえ、本高教研においては、今年度、次の 2 点を目標として明確に認識して教育活動を行う必要がある。1 点目は、全ての生徒が共通に身につける資質能力の育成 (共通性の確保)、2 点目が、多様な学習でのきめ細やかな対応 (多様化への対応) である。この 2 つのバランスに配慮しながら高校教育の質の確保・向上を図ることが、急速に変化する世界や少子化に伴う生産年齢人口の減少・過疎等の過去に経験したことのない課題を克服できる人材の育成につながると考えている。

昨年 11 月 20 日には、初等中等教育における教育課程の基準の在り方について文部科学大臣が中央教育審議会に諮問し、早くも次の学習指導要領を考え始める状況にある。また、新しい大学入試についての動きも昨年 12 月 22 日に中央教育審議会が答申している状況である。5 月 6 日には、教員能力向上へ指針・指標を検討ということで、文部科学省が小中高の教員が段階に応じて身に付けるべき能力を示した育成指標の検討に乗り出すということも報道されている。

矢継ぎ早に政策が動く中で、克服すべき高教研の運営課題もあり、時代が動いていることを感じさせられるが、私たち教員には、教育に対する強い情熱と豊かな人間性・社会性、実践的で確かな指導力が求められることに変わりはない。教員が自ら学び続ける強い意志を持って高い専門性と実践的な指導力を身に付け、その力が十分発揮されるよう高教研 16 部会と教育活動の充実に努めていきたいと思っているので、協力をお願いしたい。本日は様々な審議があるが、協力をお願いしたい。

理事定数 84 名 出席 26 名 委任状 45 名 あわせて 71 名

構成員の 2 分の 1 の出席で成立するという規約第 14 条により本会の成立を確認

2 議長選出 慣例により、青山一春 会長を議長に選出

3 議事

① 平成 26 年度事業報告 土田 謙吾 幹事 (新潟商業高等学校)

理事会資料 2 ページ「平成 26 年度事業報告」を参照

各部会の目的については資料のとおりで、前年度からの変更はなく、それぞれの事業が行われた。

研究会・研究発表の実施数については、研究会は 59 回実施され、ここ数年で最も実施数の多かった昨年度より、さらに多くの研究会が実施された。研究発表の数は、55 の発表が行われた。テーマ別にみると、指導法・実践報告が減っており、代わりに公開授業の数が増えた。参加者の変化については、前年度の 1,721 名に対して、平成 26 年度は 2,099 名となり、22%の増加がみられた。研究発表の数は減ったものの、会員は積極的に研究会へ参加したと考えられる。これらのことから、平成 26 年度の事業は、例年以上に魅力的な研究会が行われたと考えられる。

－質問意見なし、承認－

② 平成 26 年度の活動から 土田 謙吾 幹事 (新潟商業高等学校)

理事会資料 3 ページ「平成 26 年度の活動から」を参照

研究会については、先ほどの「平成 26 年度事業報告」のとおりである。

研究助成等については、会員数の減少による会費収入の減収によって、予算面で厳しい状況が続いている。新潟県教職員厚生財団および日本教育公務員弘済会新潟支部から支援をいただいている。

会の運営については、平成 26 年度は 2 つの件を事務局として、対応・検討した。1 つは、高教研のホームページの開設である。8 月に開設し、県内外に向けてより効果的な情報発信が可能になった。また、刊行費 35 万円の削減も行うことができた。2 つ目は、年会費値上げの検討である。この件については、今後も継続して検討していく必要がある。

最後に、会の活性化対策について、今後も先生方の研究意欲を喚起させる場として高教研を PR してもらい、未加入の先生方や新採用の先生方に対し、積極的に加入を呼び掛けていただきたい。

質問

柴田 圭介 保健体育部会長 (高田南城高等学校長)

ホームページの開設は大変良いと思う。年報をホームページで搭載することで予算を浮かせたということだが、各部会の活動報告の冊子についても、部会誌を発行せずに、ホームページに年報と合わせて搭載する容量はあるのか。またそれをすることができるのか。その可能性について伺いたい。

保坂 哲 幹事 (新潟南高等学校教頭)

各部会の予算配分の中に刊行費が計上されている。これは、各部会に出席できなかつた方にも見てもらうために計上されている。各部会のアップロードできる容量については、技術的なこと

になるので、今すぐここでは答えられない。後ほど調べて回答する。

柴田 圭介 保健体育部会長（高田南城高等学校長）

予算が非常に厳しい中、講師を呼んで講演会をやるということが、非常に会員や会員以外の方も集まりやすい魅力ある事業を展開できる可能性があるので、この際刊行費を見直せるようにしてもらいながら、講演の講師料等に充てられる部分を増やしていきたいという意味である。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

刊行費を削減するにしても、補助金等をいただいている団体には、冊子にして渡している。今回についても、40部近くを冊子にして作った。部会に所属をしているが、なかなか出られなかった人に対する1年間の部会の報告を紙で渡すという意味もあり、各部会での冊子を作っていた。ただ、各部会で、冊子ではなくホームページ上への掲載でよいという総意があれば、そのようにするという方法もある。しかし、部会ごとに事情も異なるかもしれないので、意見集約していかなくてはいけない。

上杉 肇 数学部会長（三条高等学校長）

ホームページへ掲載するとなると、現在の研究誌の形式でよいのかが問題となる。数学部会では、かなり生々しい原稿をほとんどそのままあげているため、それをそのままホームページへ掲載するのは厳しい。これは、会員に配布するという条件下で書いてもらっている。全部の部が一律にホームページに掲載して、冊子の作成をやめるというのは困る。また、数学部会の場合、冊子がほしいため会員になっている方がかなりいるため、冊子の作成をやめることが数学部会の場合は会員数の減少につながる可能性がある。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

会費の値上げについてのアンケートも、各部の意見を取り入れながら質問の内容も工夫していく必要がある。会費の値上げについては、昨年度のアンケートより、実質上げないという結果で動いているが、今後検討していかなければならない課題である。また再度アンケートを取りながら動いていきたいと考えている。アンケートの内容も昨年度と同様でと考えていたが、いただいた意見からアンケートの内容も工夫しながら各部会の意見も取り入れて各部会の実情に合わせた形で何とかやっていくのがいいのかと考えられる。そこで、積極的に各部の実情について意見を出してもらいたい。

柴田 圭介 保健体育部会長（高田南城高等学校長）

各部会は冊子を発刊しなければいけないという規約はあるか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

規約についてこの場で検討するというのは時間の問題もあるため、それも含めてまた事務局で検討する。

—承認—

③ 平成 26 年度決算報告 小林 信子 幹事 (新潟南高等学校)

理事会資料 4、5 ページ「平成 26 年度収支決算書」を参照

昨年度は、雑収入に英語部会の広告費も算入したが、本年度は該当教科の研究成果刊行費の値引き額として入れてもらった。支出の部については、残金の出た部会には返金してもらった。Ⅱ費目別 1.研究大会費の「謝金」について、決算額が 20 万くらい多くなっている。これは、著名な方を講師として招いたため、当初予算よりも超過したためである。

以前と異なる点は、旅費を県の基準に準じて執行したため、以前よりも抑えることができた。また、ホームページの立ち上げにより、年報の印刷代を大幅に削減することができた。しかし、助成を受けている機関には冊子を送らなければならないため、製本のみを業者に委託する形で刊行した。刊行費は、紙代と製本代である。

次年度繰越金は、508,829 円である。平成 26 年度は、配分基準も切り詰め、各部会にも部会費削減の協力をいただき、また、会員増加にも尽力いただいた。今後、会員数がどのように推移するか見ながら、予算施行を考えていかなければならない状況である。

須藤 浩 会計監査委員 (新潟商業高等学校副校長) より、執行状況も適正であると報告がある。

理事会資料 6 ページ「会計監査報告書」を参照

－質問意見なし、承認－

④ 平成 27 年度役員の交替・補充 高山 誠 幹事 (新潟南高等学校)

理事会資料 7 ページ「平成 27 年度高等学校教育研究会役員 (案)」を参照

今年度は役員改選の年ではないが、退職・異動に伴って役員の交替、および補充を行う。各部会から推薦された役員案を掲載した。規約第 23 条により、任期は前任者の残りの期間となる。

－質問意見なし、承認－

⑤ 平成 27 年度事業計画案 近藤 健一郎 幹事 (新潟高等学校)

理事会資料 8 ページ「平成 27 年度事業計画 (案)」を参照

詳細は高教研ホームページ「年報」に掲載している。

各部会の目的のうち、国語科部会で変更があった。他の部会では変更はなかった。

－質問意見なし、承認－

⑥ 平成 27 年度予算案 小林 信子 幹事 (新潟南高等学校)

理事会資料 9 ページ「高研会費値上げに係るアンケートの集計結果」、10 ページ「平成 27 年度新潟県高等学校教育研究会予算 (案)」を参照

昨年度は配分基準を縮小した中で活動をお願いし、前回の理事会で、年会費を 2,500 円へ値上げる予備提案をした。その後、昨年 12 月に各部会の予算執行状況と年会費の値上げについてのアンケートを行った。その結果は、配分比率を縮小した予算で大きな支障はないという意見が大半であり、年会費の値上げについてはもう少し慎重に検討する必要があるというものであった。

今年度の予算については、現時点の会員数が昨年度並みのため、昨年度同様の配分基準で予算編成をした。また、会費の値上げについては引き続き検討事項とし、今年 12 月にアンケートを実施し

次年度以降の判断材料とする予定である。

昨年から、配分基準は教科の部会では、120,000円＋1,150円×会員数（1,000円未満四捨五入）、それ以外の部会は、120,000円＋900円×会員数（1,000円未満四捨五入）である。今のところ、昨年より会員数が66名少ないため、来年への繰り越しは、あまり望めない状態である。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

アンケートについて、「平成26年度の活動から」のところでも触れたが、場合によっては12月より早くアンケートを実施するかもしれない。また、アンケートの内容についても、先ほどの意見を反映させるような形で、部会の意向を聞くようなアンケートになるかもしれない。昨年同様のアンケートとならないかもしれないこともお含みおきいただきたい。

－質問意見なし、承認－

⑦ その他

荒木 佳樹 国語部会長（高田北城高等学校長）

「平成26年度決算報告」で、講師の謝金が増えたとの説明があったが、謝金には基準がありそれに沿って支払われる必要があると思っていたが、基準よりも少し多めにとすることは可能なのか。

小林 信子 幹事（新潟南高等学校）

基準はあくまでも目安であり、謝金額は著名な方やその方によるため、今までは各部会の先生方に任せていた。各部会内の予算に収めていくということで何とか予算内にきっちりおさまって執行してもらっていた。

荒木 佳樹 国語部会長（高田北城高等学校長）

今年度もそのような考え方でよいか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

そのような考え方でよい。基本的には予算配分があって、昨年度は繰越等をみながら部会幹事の方が中心となって考えてもらっている。

謝金が増えるという時に、本部へ連絡が来たことはあるか。

小林 信子 幹事（新潟南高等学校）

謝金が増えるときに、本部へ連絡が来たこともないし、予算の枠内におさめてもらっている。増加分について本部が負担したことは一度もない。謝金が20万くらい増えた部会については、その部会が最初に予算として計上した額よりも余計に謝金が20万かかったが、他で削ったりして予算内に収めている。

荒木 佳樹 国語部会長（高田北城高等学校長）

予算立ての問題なのか。

小林 信子 幹事 (新潟南高等学校)

そうである。

荒木 佳樹 国語部会長 (高田北城高等学校長)

先ほどの 20 万円の超過は、一部会での超過なのか。

小林 信子 幹事 (新潟南高等学校)

一部会ではなく、全部会の超過分の合計である。

4 部会報告 「平成 27 年度高教研部会取組状況」

国語部会 荒木 佳樹 国語部会長 (高田北城高等学校長)

昨年度の目的は、国語授業の改善と国語教員の資質向上という 2 本を並行して行なうことであり、それに基づき実施事業を行った。会議については、年 2 回役員会を開催した。そこでは、全国国語教育研究連合会の情報・動向等を共有し、同年度の事業報告・計画、決算報告、予算案等の審議を行い、10 月の終わりに毎年行っている全県研究協議会の内容を具体化した。

全県研究協議会は、昨年度は、研究発表、実践発表、研究協議、講演の 4 本の柱で、長岡大手高校の済美会館で行った。講演は、早稲田大学教授の石原千秋先生にお願いした。石原先生は、近代文学研究の第一人者である。著作も多数あり、マスコミ等では専門家の立場からコメントを求められるほどの人物である。先ほどは、このような著名な人物を招くにあたり、1 時間 7,200 円で、×2 時間というのは厳しいという思いで質問した。実際、謝金は 5 万円程度となり、何とか工面して支払った。参加者数は 70 名と例年になく増え、この中には講演を聞きたいという先生方が多くいた。そこで、できるだけ年に 1 度は著名な方を招きたい。研究発表だが、佐渡高校の細川美樹先生から「学び合い学習の実践報告」をしてもらった。電子黒板を使用し、内容の理解と共に生徒によるグループワークを行い、討議、プレゼンにまで発展させていった授業研究・研究発表であった。若い先生方が、ICT 機器を積極的に使っていこうという意欲を感じた。これらは、使い慣れないといろいろ準備に時間がかかったり、授業時間そのものが機械の操作で終わってしまったりするため、このような研修の機会を利用して多くの先生方が電子黒板等に慣れていく必要があるように感じた。この授業は、佐渡高校の 3 年生を対象にした授業であったが、アンケートで、授業は電子黒板がいいかこれまで通りの黒板がいいかという問いに対して、5 割の生徒が従来通りの黒板がいいと回答しており、興味深い結果となった。

実践発表は、堀之内高校の加藤裕美子先生にお願いした。「主体的に取り組む」という点がポイントであると思う。『奥の細道』朗読 CD を作る」というところまで行った。授業の内容は、口語訳、内容理解という普通の古典の授業の後、生徒自らが読み込んで吹き込んだものを CD に焼き、点字図書館に寄贈して活用してもらった。生徒が社会と接点を持つという活動内容になっており、また、CD を完成させ図書館へ寄贈したことによって生徒の達成感が非常に高まったという発表だった。

研究協議会は、県立教育センターの山本指導主事に指導と講評をお願いした。「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善」ということで、予定していた時間を超過する活発な議論が行われた。

講演は、石原先生から「大学受験のための国語力」についてお話しいただいた。特に、現代文の中でも評論といわれる分野は、欧米の思想の影響を時間差で受けて表現しているものであるため、欧米の思想・哲学的な思想を理解していないと、本当のところは理解ができないというお話だった。今後、現代

文を指導するのにあたっては、教員もやはり哲学的な素養が必要であるということを感じた。

部会誌の発行を行った。昨年度実施の事業は以上のとおりである。

特色ある取組・事業としては、全県研究協議会である。部会の目的もさることながら、現行の学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえた内容ができた。部会誌の発行については、それぞれ県内には優れた授業実践・研究を行っている先生方がいるので、その成果を共有する横のつながりをこの部会誌を通して行えればと思っている。部会誌の内容の中には、自己の研究テーマとして、配給しているものもある。それを全国につなげたいということで、国立国会図書館へ寄贈、全国国語教育研究連合会にも寄贈した。

今後の展望と課題だが、会員数の増加、上中下越新潟の地区別の研究会・報告会等ができればより一層教員相互のつながり、学び合いになると思う。今年一年、昨年以上に盛り上げながらやっていきたい。

質問

上杉 肇 数学部会長（三条高等学校長）

部会誌は何冊くらい発行しているのか。

荒木 佳樹 国語部会長（高田北城高等学校長）

会員＋その他関係機関に送っているため、200部発行している。

商業部会 内野 信昭 商業部会長（新潟商業高等学校長）

商業部会の目的である「経済社会の発展を担う商業教育」を実現するために、「簿記分野」、「ビジネス分野」、「情報分野」、「総合分野」の4つの分野で商業部会の研究を行っている。これを持ち回りで、各地区の特色を考慮して行なっている。昨年度は、三条商業高校で「ビジネス分野研究会」を行った。議題は三条商業高校の実践発表も含め、モノづくり三条で実際どのようにモノづくりが行われているのかというお話を聞き、実際に現場も見学させてもらった。また、後半部分では、この三条地域の商業活動をお金の面で支えている三条信用金庫の研究所の方からお話をいただいた。2回目の商業部会は、「総合分野研究会」で村上桜ヶ丘高校が主管校となって行った。村上地区は町屋再生で地域活性化に取り組んで成功している地区である。その活動から商業教育の中で生徒が取り組んでいる活動のヒントをいただいた。

昨年度1年間の活動をまとめた『新潟県商業教育』を発刊した。

特色ある取組・事業においては、商業教育においてどのような取り組みを行えば、実践力・生きる力を身に付けさせられるかを研究会の開催を含めて様々な取り組みを行っている。その1つとして、地域との連携としてインターンシップに取り組み、また、生徒を講師や助手として学校開放講座を行っている。地域をよく知ることを目的として、学校設定科目「地域ビジネス」等々を開設している。学校間連携としては、全国の商業高校とインターネットで模擬取引を行う電子取引、それから農工商業高校が連携して商品開発、販売実施を行っている。それから販売実習もっており、空き店舗を利用して生徒が実際に販売実習を行っている。より実践的な取組みとしては資料に記載のとおりであるが、地元企業とコラボレーションした商品開発、その商品を楽天とタイアップして実際にインターネットで販売する楽天IT学校、それから知的財産に関する想像力・実践力・活用力開発事業等々を行っている。

今後の展望と課題であるが、手を広げすぎた感があるので、今後の高教研の取り組みとしては研究会を年1回とすることにした。地域の産業の見学・講演は継続した上で、公開授業を実施して授業力の向

上につながる研究・内容の充実を図りたい。高教研の Web ページを活用し、教科研究に役立つ情報共有を図りたい。このような活動を通じて、加入者数の減少に歯止めを掛けたい。

質問

上杉 肇 数学部会長（三条高等学校長）

それぞれの参加者数を参考までに教えていただきたい。

内野 信昭 商業部会長（新潟商業高等学校長）

わかりません。

藤井 人志 副会長（新発田高等学校長）

特色ある取り組みで長岡 CAT 等があるが、別の地域でイニシアチブをとって実施するという考えはあるのか。

内野 信昭 商業部会長（新潟商業高等学校長）

結果としてという部分がある。このような形になるかはわからないが、海洋高校の最後の一滴は同窓会とコラボレーションした会社であり、若干広がりを見せている。

久保田 郁夫 水産部会長（海洋高等学校長）

最後の一滴は、県の事業選択で、未来プロジェクトとして4地域から挙がっている。

視聴覚部会 齋藤 友紀雄 視聴覚部会長（糸魚川白嶺高等学校長）

視聴覚部会では大きく二つの事業を行っている。まず、生徒の放送部活動を指導する力量を高めるための事業。高文連の放送専門部と密接に連携をし、放送コンテストあるいは放送部の生徒のための講習会を実施している。中心になるのはNHK杯全国放送コンテストである。講習会も多数の放送部員の生徒が集まって有益な講習会を実施している。二番目は視聴覚教育全般についての教員の力量を高めるための事業である。生徒の講習会と並行して視聴覚部の総会と指導者の講習会を行っている。昨年度は主にビデオカメラの使用法について講習を行った。部会誌も毎年出している。

特色のある取り組みとして、NHKとの繋がりが挙げられる。秋のQK杯校内放送コンクールの主催、賞状の提供をいただいている。NHK新潟のアナウンサーに放送コンテストの審査員、全国大会出場者への特別講習等も行ってもらっている。テレビに出ているアナウンサーから直接指導をもらえ、生徒は非常に喜んでいる。

今後の展望と課題である。県代表の生徒も北信越、全国大会では、最近入賞できないというのが現状である。指導者の育成をさらにやらなければならない。二番目として、地域によって放送部、放送委員会の活動状況に差がある。この格差をなくさないといけない。放送部に興味、関心をもつ教員を増やしていきたい。

最後に、IT技術の進歩は日進月歩であり、時代に対応した新しい視聴覚機器もどんどん出てきている。これからの視聴覚教材のトレンドは電子黒板、デジタル教科書であり、これから研究していかなければいけない一番重要なものであると思われる。この部会でいろいろと研究していきたい。

質問

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

地域によって活動の差があるといのは、地域によって指導者がいるかいないかということが大きいのか。

齋藤 友紀雄 視聴覚部会長より

それもあるし、今までの長い歴史の中でこの状態が続いていると思われる。

放送部の指導をされて興味を持った方が転勤され、その地域で頑張っていただければいいと思うが、そこらへんがうまくつながってこないというのが現状である。

5 事務連絡 理事会資料 11 ページ参照

6 閉会挨拶 藤井 人志 副会長（新発田高等学校長）

アクティブラーニングが言われているが、高校の授業が本当にアクティブラーニングになっているのか。以前と変わりなく一方的な授業になっていないか。子どもたちが授業の中で本当に考える時間があるのか。また、授業をみていると、教科書を丁寧に教えることはしているが、一般的な事との繋がりを語れないことがある。教科の深みが全然深まっていない。深みをもたせるために高教研が非常に有効だと思う。

電子黒板を使うことで、英語の詩的な内容の文章をゆっくり味わうことができる。国語でも、江戸時代、明治時代の状況や物を映像として見せたり、こういう使われ方をしていたという動画を見せることができる。電子黒板や電子機器に翻弄されるのはいけないが、それを上手に使って、頭を使う、工夫する、考える、議論する時間を作れば一番いい。

高教研のホームページに授業の動画をのせるのもよいのではないか。

7 閉 会 吉田 保夫（新潟南高等学校副校長）

平成 27 年度 活動から

1 研究会等

今年度も各部会の精力的な努力によって各種の研究会（講習会・見学会・展示会等）が開催されました。詳細については一覧をご覧ください。

2 研究助成等に関して

ここ数年来の会員数の減少に伴う会費収入の減少は続き、予算面で厳しい状況が続いています。このような状況の中で財団法人新潟県教職員厚生財団、及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部からご支援をいただき、本会の運営にあたっています。改めて紙面を借りて感謝申し上げます。

3 会の運営について

(1) 新潟県高等学校教育研究会ホームページ運用

平成 26 年 8 月から開設した高教研ホームページの運用とメンテナンスを行っております。各部会の情報は当該部会幹事を中心に適宜アップロードしていただいております。これにより県内にとどまらず県外にも各部会の活動状況を発信することが可能となり、これまで以上に活性化や交流が期待できます。今後も有効に活用願います。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ <http://www.kokyoken.nein.ed.jp/>

(2) 経費節減対策

事務局からの発送文書について、可能な限りメールやホームページでの閲覧や様式ダウンロード形式としました。これにより約 280,000 円の経費を削減することができました。今後も経費削減で改善できるところは見直していきます。

4 会の活性化対策について

本会の会員数は平成元年の 4,035 人をピークに年々減少し、平成 16 年度は 3,000 人を切り、さらに平成 25 年度は 2,000 人を切りました。平成 27 年度の会員数は 1,999 名と、ここ数年は 2,000 人前後の推移となっております。

会員数増員のためにはこれまで以上に魅力ある高教研にする必要があります。今年度 1 月に各部長宛に魅力ある高教研にするためのアンケートを実施しました。現在いただいたご意見を集約しているところです。平成 28 年度にはその対応案について事務局よりお示ししたいと考えております。

各部会におかれましても引き続き研究会等への参加を契機に未加入の先生方、特に新採用の先生方へ積極的に声がけをいただきますようお願いいたします。

(文責・幹事：新潟南高等学校教頭 保坂 哲)

平成17年度以降予備費からの各種 大会への出資状況

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	計	
		国語	地歴公民	数 学	理 科	音 楽	美・工、書	英 語	農 業	工 業	商 業	水 産	家庭科	保健体育	生徒指導	図 書 館	視 聴 覚	定 通		
H17	繊維工業北信越大会									20000									80000	
	化学工業北信越大会									20000										20000
	機械工業北信越大会									20000										
	図書 北信越大会															20000				
H18	理科 北信越大会				20000														20000	
H19	工業 関東甲信越地区大会									20000									40000	
	数学 北陸四県数学研究会			20000																
H21	工業 北信越大会									20000									40000	
	生徒指導 講師謝礼の補助														20000					
H22	美・工、書全国大会						30000												30000	
H23	無し																		0	
H24	英語 スピーチコンテスト関係旅費補助							30000											30000	
H25	英語スピーチコンテスト関係旅費補助							40000											70000	
	工業北信越工業化学教育研究大会補助									30000										
H26	工業北信越工業化学教育研究大会補助									20000									20000	
H27	無し																			
		0	0	20000	20000	0	30000	70000	0	150000	0	0	0	0	20000	20000	0	0	330000	

平成27年度 収支決算書

収入の部

区 分	予 算 額(a)	決 算 額(b)	比 較 増 減(b-a)	摘 要
会 費	3,866,000	3,998,000	132,000	年額一人2,000円×1999人(予算作成時までの会員数1933人。66人増)
助 成 金	600,000	600,000	0	県教職員厚生財団・教育公務員弘済会より
雑 収 入	332	198	△ 134	利子
繰 越 金	508,829	508,829	0	平成26年度より
合 計	4,975,161	5,107,027	131,866	

支出の部

I 部会別

区 分	予 算 額(a)	決 算 額(b)	比 較 増 減(b-a)	摘 要				
				研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他
1. 国 語	303,000	290,871	△ 12,129	67,871	7,000	0	216,000	0
2. 地歴公民	319,000	302,519	△ 16,481	208,073	0	0	94,446	0
3. 数 学	442,000	391,540	△ 50,460	205,740	0	10,800	175,000	0
4. 理 科	426,000	405,666	△ 20,334	173,666	0	0	232,000	0
5. 芸 術	209,000	209,000	0	149,222	0	0	59,778	0
6. 英 語	485,000	484,036	△ 964	256,512	6,480	0	107,660	113,384
8. 農 業	289,000	289,000	0	160,000	0	0	129,000	0
9. 工 業	297,000	297,000	0	197,000	0	0	100,000	0
10.商 業	247,000	247,000	0	100,000	0	0	147,000	0
11.水 産	163,000	163,000	0	16,518	0	105,481	1,601	39,400
12.家 庭 科	271,000	271,000	0	136,000	0	0	135,000	0
13.保健体育	245,000	200,021	△ 44,979	198,709	1,312	0	0	0
14.生徒指導	318,000	255,545	△ 62,455	97,030	24,595	0	133,920	0
15.図 書 館	171,000	165,723	△ 5,277	110,643	0	0	55,080	0
16.視 聴 覚	146,000	146,000	0	54,632	37,368	0	54,000	0
17.定 通	278,000	278,000	0	106,972	31,492	0	139,536	0
本部関係	266,161	60,746	△ 205,415					
予備費	100,000	0	△ 100,000					
合 計	4,975,161	4,456,667	△ 518,494	2,238,588	108,247	116,281	1,780,021	152,784

Ⅱ 費目別

区分	予算額(a)	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘要
1. 研究大会費	2,426,676	2,238,588	△ 188,088	
謝金	700,747	540,816	△ 159,931	
旅費	310,000	261,958	△ 48,042	
使用料及び貸借料	546,844	586,695	39,851	会場使用料・設備使用料・借りあげバス等
資料費	289,260	438,681	149,421	
通信運搬費	248,075	267,584	19,509	切手, 送料, 手数料等
賃金	140,000	43,200	△ 96,800	テープ起こし
会議費	191,750	99,654	△ 92,096	茶, 茶菓子, 講師弁当等
2. 研究調査費	171,404	108,247	△ 63,157	
資料費	56,315	45,452	△ 10,863	
通信運搬費	10,000	48,295	38,295	
会議費	105,089	14,500	△ 90,589	
3. 研究図書購入費	0	116,281	116,281	数学部会4冊・水産部会17冊
4. 研究成果刊行費	1,940,920	1,780,021	△ 160,899	
5. その他	70,000	152,784	82,784	英語部会大会参加視察旅費補助等・水産部会 農林水産省補助事業研修会参加補助等
6. 本部関係費	266,161	60,746	△ 205,415	
事務費	226,161	41,630	△ 184,531	通信費
会議費	20,000	0	△ 20,000	
刊行費	20,000	19,116	△ 884	コピー用紙, 製本代
7. 予備費	100,000	0	△ 100,000	本年度無し
合計	4,975,161	4,456,667	△ 518,494	

収入決算額 ¥ 5,107,027

支出決算額 ¥ 4,456,667

¥ 650,360 (次年度繰り越し)

役 員

理 事

会 長	青山一春	新潟南
副 会 長	加藤寿一 新潟中央 轡田勝祐 長 岡 渡辺尚人 佐 渡	藤井人志 新発田 大塚俊明 高 田
顧 問	石井 充	新 潟

部 会							
No.	部 会 名	部 長	副 部 長				
1	国語	荒木佳樹 高田北城	北岸信治 新 潟	富樫信浩 白 根	中戸義文 小 出	吉井裕也 安 塚	
2	地歴公民	武内 均 豊 栄	岩田宏樹 新潟豊	熊谷秀則 新津工業	滝澤 卓 川 西	平原孝之 高田南城	
3	数学	上杉 肇 三 条	桑原弘秀 新潟東	大坂 久雄 村上中等教育	竹内正文 五 泉	吉田 弘 分 水	上野順治 柏 崎
4	理科	高倉 聡 新 井	岩崎 啓 村上中等	長谷川雅一 長 岡	堀 昌明 加 茂	加藤徹男 直江津中等	
5	芸術	坂下忠士 塩沢商工	小堺さとみ 新潟翠江	大田英則 巻総合	風巻 洋 小千谷	南雲 充 柏崎常盤	
6	英語	杉田 勉 万 代	萩野俊哉 新潟翠江	山賀淑雄 高志中等	吉原 満 長岡大手	竹内正宏 新潟東	上野利彦 高田南城
7	農業	竹内公英 加茂農林	志田重道 新発田農業	伊藤本恵 長岡農業	佐々木雅伸 柏崎総合	高橋哲也 高田農業	須藤良平 佐渡総合
8	工業	安達弘哉 長岡工業	熊谷秀則 新津工業	大湊卓郎 新潟県央工業	木村 勉 上越総合技術		
9	商業	内野信昭 新潟商業	田辺信男 新発田商業	島峯 勉 長岡商業	平倉哲夫 高田商業		
10	水産	久保田 郁夫 海 洋	木村和史 海 洋				
11	家庭	吉原 満 長岡大手	関矢和彦 西川竹園	島峯 勉 長岡商業	南雲 充 柏崎常盤	須藤良平 佐渡総合	
12	保健体育	柴田圭介 高田南城	今西博一 村 松	本間房男 新潟翠江	薄 一俊 出雲崎	山田 学 有 恒	
13	生徒指導	本田雄二 卷	今西博一 村 松	太田洋一 栃 尾	高橋哲也 高田農業	清水源一 相 川	
14	図書館	坂下忠士 塩沢商工	田辺信男 新発田商業	齋藤友紀雄 糸魚川白嶺	渡邊尚人 佐 渡		
15	視聴覚	齋藤友紀雄 糸魚川白嶺	富樫信浩 白 根	横堀真弓 三条東	阿部正一 栃 尾		
16	定通	萩野俊哉 新潟翠江	佐藤康広 荒 川	蟻塚 孝 長岡明德	柴田圭介 高田南城	渡辺尚人 佐渡相川分校	神田正俊 開志学園

会計監査委員

須藤 浩 新潟商業 斎藤直人 明 鏡 竹内正宏 新潟東

委 員

地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数
新 潟	1	新 潟	斎京四郎	53	五泉・新発田	29	村 上 桜ヶ丘	星 達 哉	24	柏 崎	63	柏 崎	岡 田 淳	19
	2	新 潟 中 央	丸 山 綾 子	27		30	荒 川	越 昌 宏	15		64	柏 崎 常 盤	奥 田 優	11
	3	新 潟 南	保 坂 哲	36		31	中 条	高 橋 周 之	7		65	柏 崎 総 合	五十嵐雅樹	16
	4	新 潟 江 南	田 邊 薫	19		32	阿 賀 野	遠 宮 武 志	7		66	柏 崎 工 業	浅 野 和 樹	22
	5	新 潟 西	坂 元 淳 子	15		私12	新 発 田 中 央	木 村 英 祐	12		67	出 雲 崎	薄 一 俊	9
	6	新 潟 東	竹 内 正 宏	12		私13	開 志 国 際		3		特19	柏崎特別支援		0
	7	新 潟 北	竹 田 直 人	15		中 等 1	村 上 中 等	岩 崎 啓	19		私14	新 潟 産 大 付 属	松 井 公 平	7
	8	新 潟 工 業	阿 部 素 子	48		33	長 岡	桐 原 宏 史	34		中 等 2	柏 崎 翔 洋 中 等	川 上 豪	13
	9	新 潟 商 業	川 上 史 人	31		34	長 岡 大 手	内 山 崇	17		68	高 田	早 川 智	35
	10	新 潟 向 陽	小 林 裕 貴	12		35	長 岡 向 陵	榊 厚 志	14		69	高 田 北 城	小 畑 智 嗣	21
	11	新 潟 翠 江	小 塚 さ と み	40		36	長 岡 明 徳	村 山 庄 吾	19		70	高 田 南 城	佐 藤 直 之	19
	12	卷	中 川 佳 代 子	27		37	長 岡 農 業	村 山 和 彦	28		71	高 田 農 業	竹 園 克 裕	30
	13	卷 総 合	渡 辺 昭 彦	13		38	長 岡 工 業	石 澤 聡	19		72	上 越 総 合 技 術	堀 内 義 博	27
	14	西 川 竹 園	渡 邊 優 子	6		39	長 岡 商 業	梶 良 成	18		73	高 田 商 業	須 戸 修	14
	15	豊 栄	早 川 勝 志	7	40	正 徳 館	藤 田 純 子	5	74	久 比 岐	稲 川 俊 啓	6		
	16	新 津	小 竹 聖 一	13	41	栃 尾	阿 部 正 一	15	75	有 恒	大 國 隆 彦	6		
	17	新 津 工 業	住 吉 宏	22	42	見 附	遠 山 千 勇	10	76	安 塚	鈴 木 正 之	5		
	18	新 津 南	佐 藤 浩	10	特3	長 岡 豊	近 藤 昌 一	2		松 之 山 分 校		0		
	19	白 根	伊 皆 嘉 樹	4	私9	帝 京 長 岡	小 熊 牧 久	0	77	新 井	内 山 喜 博	19		
	市1	万 代	石 川 讓 太	14	私10	中 越	竹 内 拓	13	78	糸 魚 川	加 藤 幹 男	9		
	市2	明 鏡	横 尾 則 幸	24	私19	長 岡 英 智	岩 下 隆 志	7	79	糸 魚 川 白 嶺	坂 口 和 成	10		
	市 中 等 1	高 志 中 等	山 田 淳 一	11	43	三 条	名 川 由 里 子	22	80	海 洋	貝 田 雅 志	23		
	特1	新 潟 盲	本 間 由 紀	0	44	三 条 東	横 堀 真 弓	10	中 等 5	直 江 津 中 等	萱 森 茂 樹	14		
	特2	新 潟 聾	岩 田 宏 樹	3	45	新 潟 県 央 工 業	本 宮 信 之	16	特13	高 田 特 別 支 援		0		
	特5	西 蒲 高 等 特 別 支 援		0	46	三 条 商 業	徳 永 和 教	14	特17	上 越 特 別 支 援		0		
	特15	東 新 潟 特 別 支 援	笹 山 恵 湖	2	47	吉 田	石 積 希	13	私15	上 越	風 間 和 夫	10		
	特16	は ま ぐ み 特 別 支 援		0	48	分 水	島 田 修	8	私16	関 根 学 園	松 嶋 幸 則	12		
	私1	新 潟 明 訓	郷 直 人	67	49	加 茂	堀 昌 明	5	81	佐 渡	渡 邊 尚 人	10		
私2	北 越	中 村 誠	24	50	加 茂 農 林	真 島 徳 衛	44		佐 渡 相 川 分 校	佐 藤 綱 雄	5			
私3	新 潟 青 陵	永 井 孝 史	12	中 等 3	燕 中 等	平 山 剛	12	82	羽 茂	羽 豆 拓 夫	9			
私4	新 潟 清 心 女 子		0	特10	月ヶ岡特別支援		0	83	相 川	佐 藤 綱 雄	6			
私5	敬 和 学 園		0	特18	吉 田 特 別 支 援		0	84	佐 渡 総 合	山 口 活 水	17			
私6	新 潟 第 一	平 田 龍 彦	61	私11	加 茂 暁 星	熊 倉 進	15	中 等 6	佐 渡 中 等	江 川 真	12			
私7	東 京 学 館 新 潟	石 田 光 憲	48	51	小 千 谷	小 林 皇 司	12		県 立 教 育 セ ン タ ー	横 堀 正 晴	19			
私8	日 本 文 理	渡 辺 弘 一	16	52	小 千 谷 西	外 山 徹 宏	14		高 等 学 校 教 育 課	勝 山 宏 子	15			
私17	開 志 学 園	神 田 正 俊	4	53	堀 之 内	津 畑 進	15		文 化 行 政 課		0			
20	五 泉	佐 藤 雄 二	13	54	小 出	中 村 剛	9		保 健 体 育 課	桑 原 文 博	10			
21	村 松	櫻 井 麻 利 子	11	55	国 際 情 報	関 口 和 之	27		県 文 書 館		1			
22	阿 賀 黎 明	池 田 匡	11	56	六 日 町	植 木 勲	19		合 計		1999			
23	新 発 田	増 川 義 行	27	57	八 海	白 藤 恵 一	7							
24	西 新 発 田	渡 邊 孝 弘	7	58	塩 沢 商 工	菊 池 啓 一	16							
25	新 発 田 南	五十嵐雅実	23	59	十 日 町	磯 邊 一 幸	34							
	豊 浦 分 校	渡 邊 幸 晴	2	60	十 日 町 総 合	百 崎 守	18							
26	新 発 田 農 業	村 山 英 司	32	61	川 西	中 原 丈 二	5							
27	新 発 田 商 業	野 口 純 敬	14	62	松 代	夏 見 康 彦	5							
28	村 上	渡 邊 治 夫	10	中 等 4	津 南 中 等	伊 藤 大 助	16							
私13	開 志 国 際 学 園		0											

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	牛木信昭	高田北城	162	8	工業	鶴巻勝弘	長岡工業	154
2	地歴公民	鈴木健一	村上中等	175	9	商業	土田謙吾	新潟商業	110
3	数学	田辺智洋	三条	282	10	水産	貝田雅志	海洋	37
4	理科	近藤弘志	新井	274	11	家庭	村田しのぶ	長岡大手	133
5	芸術	(音)土田利枝子	十日町	79	12	保健体育	小林浩之	高田南城	122
		(美)鈴木清子	新潟工業		13	生徒指導	大野善	巻	225
		(書)長津綾子	荒川		14	図書館	長谷川正一	塩沢商工	57
6	英語	小林一彦	新潟西	319	15	視聴覚	平倉政弘	新潟工業	29
7	農業	千葉哲弥	加茂農林	147	16	定通	小塚さとみ	新潟翠江	179

事務局幹事

保坂 哲 (新潟南)	近藤健一郎(新潟)	菅家陽子(新潟中央)
渡邊 尚紀(新潟南)	土田 謙吾(新潟商業)	高山 誠(新潟南)
近 優子 (新潟南)	小林 信子(新潟南)	佐藤 博美(新潟南)

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章 総 則

- 第1条 この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。
- 第2条 この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。
- 第3条 この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。
1. 高等学校教育に関する調査研究
 2. 研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行
 3. 会員の研究に対する援助
 4. その他この会の目的達成に必要な事項

第2章 組 織

- 第4条 この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。
- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 国語部会 | 2. 地理歴史・公民部会 | 3. 数学部会 |
| 4. 理科部会 | 5. 音楽部会 | 6. 美術工芸書道部会 |
| 7. 英語部会 | 8. 農業部会 | 9. 工業部会 |
| 10. 商業部会 | 11. 水産部会 | 12. 家庭科部会 |
| 13. 保健体育部会 | 14. 生徒指導部会 | 15. 図書部会 |
| 16. 視聴覚部会 | 17. 定通部会 | |

第3章 機 関

- 第5条 この会は、次の機関をおく。
1. 委員会
 2. 理事会
 3. 部長会
 4. 部会委員会
- 第6条 委員会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。
1. 規約の決定並びに改正に関すること。
 2. 事業計画に関すること。
 3. 予算の決定、決算の承認に関すること。
 4. 財産および基金の処分に関すること。
 5. 役員の設定に関すること。
 6. 他団体への加入脱退に関すること。
 7. この会の解散に関すること。
 8. その他必要な事項に関すること。

- 第 7 条 委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、理事会が必要と認めるとき、および半数以上の委員から要求があったとき、会長が招集する。
- 第 8 条 委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。
- 第 9 条 理事会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
1. 委員会から委任された事項の審議執行に関すること。
 2. 委員会に提出する議案に関すること。
 3. 緊急事項の処理に関すること。ただし、次の委員会に承認を得なければならない。
- 第 10 条 理事会は、理事で構成する。理事には、会長・副会長・各部会の部長・副部長および委員会で必要と認められた若干名がなる。
- 第 11 条 理事会は必要により会長が招集する。
- 第 12 条 部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。
- 第 13 条 委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。理事の代理は認めない。
- 第 14 条 委員会・理事会・部長会の会議は、構成員の 2 分の 1 以上の出席で成立し、多数で決する。
- 可否同数のときは、議長が決める。
- 第 15 条 部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。
- 第 16 条 部会委員会は次の任務権限をもつ。
1. 専門的事項について調査研究する。
 2. 専門的事項について委員会に提案する。
 3. 専門的事項についての業務を執行する。
- 第 17 条 部長委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。
- 第 18 条 部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。
- 第 19 条 部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第 4 章 役 員

- 第 20 条 この会には、次の役員をおく。
- | | | | |
|-----------|-------|------------|-------------|
| 1. 会長 | 1 名 | 2. 副会長 | 5 名 |
| 3. 部長 | 各 1 名 | 4. 副部長 | 各 4 名以内 |
| 5. 理事 | 若干名 | 6. 委員 | 各校 1 名 |
| 7. 会計監査委員 | 3 名 | 8. 幹事 | 若干名 |
| 9. 部会幹事 | 各 1 名 | 10. 校内部会代表 | 各校内の部会各 1 名 |
| 11. 顧問 | | | |
- 第 21 条 役員の仕事権限は、次の通りである。
1. 会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
 2. 副部長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
 3. 部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。

4. 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5. 理事は第9条により会務を執行する。ただし理事は委員を兼ねることが出来ない。
6. 委員は、各校内の意見を代表し、第6条によりその任を遂行する。
7. 会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8. 幹事は、この会の事務を処理する。
9. 部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10. 校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11. 顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条 役員を選出法は、次の通りとする。

1. 会長・副会長・部長・副部長は、委員会で地区を考慮して会員の中から選挙する。
2. その他の理事は、必要により委員会で選挙する。
3. 委員は、各学校から1名選挙する。
4. 会計監査委員は、委員会で互選する。
5. 幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6. 部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7. 校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8. 顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条 役員任期は、2年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第5章 会 計

第24条 この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。

会費は、毎年5月1日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 雑 則

第26条 この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第27条 この会の規約を実施するに必要な規定は、別に定める。

第7章 附 則

第28条 この規約は昭和23年10月15日から実施する。

2. 昭和61年6月9日改正施行する。
3. 平成2年6月8日改正施行する。
4. 平成7年5月31日改正施行する。
5. 平成23年6月17日改正施行する。
6. 平成24年6月22日改正施行する。

事務局日誌抄

- 月・日
- 4・1 平成27年度高教研役員交代・補充についての依頼発送
 - 4・2 平成27年度高教研「会員募集文書」などの袋詰め作業および発送。
 - 4・2 高教研会計監査委員の派遣依頼発送
 - 4・2 高教研幹事の派遣依頼発送（校外幹事3名宛）
 - 4・15 会計監査(新潟南高校 応接室)
 - 4・15 幹事会(新潟南高校 応接室)〈理事会の準備・運営について〉
 - 4・24 高教研理事会の開催についての依頼・案内発送
 - 5・11 予算作成作業着手
 - 5・13 理事会(新潟南高校 視聴覚教室)〈本誌「理事会記録」参照〉
 - 5・25 高教研部会幹事へ派遣依頼発送
 - 6・1 公益財団法人新潟県教職員厚生財団へ教育・文化活動団体助成事業完了報告書を提出
 - 6・1 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 新潟支部支部長へ平成27年度事業への助成について依頼
 - 6・2 高教研委員会文書審議の依頼発送（各委員宛）
 - 6・19 新潟県教職員厚生財団より400,000円寄付
 - 6・19 部会幹事連絡会（新潟南高校 図書館）〈部会経理等について〉
 - 6・26 委員会文書審議の結果発送
 - 7・28 新潟県教育公務員弘済会より200,000円寄付
 - 7・28 平成26年度各部会研究誌送付（高等学校教育課長、県立教育センター所長宛）
 - 10・7 新潟県教職員厚生財団理事長へ平成28年度事業への助成について依頼
 - 11・16 各部会幹事に平成27年度末「事務処理関係文書」電子メールにて発送
 - 1・22 「魅力ある活動について」アンケート実施（各部長宛）
 - 2・12 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 新潟支部支部長へ提出
 - 1・25 各部会より事業報告・事業計画(案)、決算報告書、高教研年報の原稿などの到着
『高教研年報』第55号の編集作業に着手
 - 3・31 『高教研年報』第55号発行

(文責 幹事・新潟南高等学校 小林信子)

編集後記

平成27年度の高教研の活動状況をまとめた「高教研年報」第55号をお届けします。

今年度も各部会それぞれが活発に研究協議会・講演会等が実施されました。その中で特に注目すべきはアクティブ・ラーニング（以下、AL）を扱う教育研究会が増えてきたことです。これは教育改革案の一つでもあり、今後ますますこの研修が盛んになることが十分予想されます。

生徒の思考を活性化させるAL型授業を成功させるには指導者の資質・能力の向上が不可避と感じます。これまでの「教える」という立場から、生徒を「導く」という立場への変化が求められるため、これまでの授業形式に慣れている教員にとって、ALの形式は難易度が高いと考えられます。

生徒が思考・判断するスピードに合わせ、その少し先に課題を置きながら進む姿勢は、これまでの一方的に教えるスタイルと大きく異なります。また、生徒が答えを導き出せず躓いたときも、これまでのようにその「原因」や「答え」を言うのではなく、あくまで生徒自らが「原因」や「答え」を導き出し、問題を解決していく手伝いに徹する必要があります。放任しすぎても、干渉しすぎても駄目で、教員の指導レベルが問われます。

このような教育課題に対して会員間の情報交換や研修をとおして、教育の専門分野について研究する本会の役割は非常に大きいものがあります。事務局としては、各部会との連携を図るとともに、より魅力ある事業を展開し、会員の減少傾向を止め、増加に転じていけるよう努力していきたいと考えております。会員の皆様には、今年度開設した新潟県高等学校教育研究会ホームページ（<http://www.kokyoken.nein.ed.jp/>）を積極的かつ有効にご活用いただくとともに、未加入の先生方への呼びかけをお願いいたします。

終わりに、この一年間、部会運営等に多大なご尽力をいただきました先生方、並びにご多用にもかかわらず原稿執筆にあたっていただいた先生方に深く感謝申し上げますとともに、会員の皆様の今後のご活躍を祈念して編集後記とします。

（文責・幹事：新潟南高等学校教頭 保坂 哲）